# 平成９年度埋蔵文化財
# 発 掘 調 査 報 告 書

## 市内遺跡確認調査

木山遺跡
古屋敷遺跡
下場遺跡
大藪遺跡
大淵遺跡
向山遺跡
直り山Ｂ遺跡
猿ヶ馬場Ａ遺跡

１９９８

新潟市教育委員会

# 例　言

1．本書は平成９年度に実施した新潟市内遺跡の範囲確認調査の報告書である。
2．調査は国庫及び県費の補助金交付を受けて、新潟市教育委員会が主体となり埋蔵文化財センターが主管した。
3．調査で得た資料は、埋蔵文化財センターが一括して保管している。
4．参考・引用文献は巻末に一括して掲げた。
5．古屋敷遺跡、大淵遺跡、向山遺跡の調査では有志の方々から協力をいただいた。
6．本書の編集は朝岡が担当し、執筆はⅢ章・Ⅵ章は廣野が、ほかは朝岡が行った。
7．調査から本書の作成に至るまで、多くの方々・機関から指導・協力をいただいた。

# 目　次


Ⅰ　平成９年度管内遺跡調査……1
Ⅱ　木山遺跡範囲確認調査……3
Ⅲ　古屋敷遺跡範囲確認調査……5
Ⅳ　下場遺跡範囲確認調査……11
Ⅴ　大藪遺跡範囲確認調査……13
Ⅵ　大淵遺跡範囲確認調査……15
Ⅶ　向山遺跡範囲確認調査……20
Ⅷ　直り山Ｂ遺跡範囲確認調査……22
Ⅸ　猿ヶ馬場Ａ遺跡範囲確認調査……25


調査体制

| | | |
|---|---|---|
| 調査主体 | 新潟市教育委員会（埋蔵文化財センター） | |
| 調査担当 | 廣野　耕造 | （新潟市教育委員会埋蔵文化財センター　主事） |
| 調 査 員 | 朝岡　政康 | （　同　上　） |
| 作 業 員 | 古屋敷遺跡　駒形　正明・星山　貞二 | |
| | 大淵遺跡　駒形　正明・長谷川　勝 | |
| | 向山遺跡　青木　春雄・岩田　邇 | |

# Ⅰ　平成９年度管内遺跡調査

## １　調査体制

埋蔵文化財に関する業務において、平成７年度に埋蔵文化財センター（以下「センター」と略す）が開設されてからは、センターでは本格調査とそれにともなう出土遺物の整理作業・報告書作成等を受け持ち、生涯学習課文化財係では開発事業に係る遺跡の扱いについての協議・確認調査・工事立会い等を受け持ってきた。

今年度からはその業務分担を変更し、文化財係においては開発事業に係る遺跡の扱いについての協議を、センターにおいては既存の業務と文化財係の受け持っていた確認調査・工事立会い等の調査を受け持つこととなった。

## ２　管内調査概要

今年度は本格調査２件、範囲確認調査８件、立会い調査１件の計11件を実施した。

**本格調査**　石動遺跡第２次発掘調査（新潟市本所字居浦889番地ほか・４月～７月）、大淵遺跡発掘調査（新潟市大淵字天神浦1288番地ほか・８月～11月）が行われた。石動遺跡は県道拡幅工事にともなう調査で1,374㎡を調査し、弥生～平安時代の遺構・遺物が検出された。なお石動遺跡の１次調査は平成７年度に行われている。大淵遺跡は宅地造成にともなう調査で2,700㎡を調査し、平安時代（９～10世紀）を中心とする遺構・遺物が検出された。両遺跡とも今後整理作業を進め報告書を刊行する予定である。

**範囲確認調査**　古屋敷遺跡で遺物が、大淵遺跡で遺構・遺物が、直り山Ｂ遺跡で遺物がそれぞれ検出されたが、Ⅱ章以下にその詳細について記した。

**立会い調査**　山木戸遺跡にかかる個人住宅建設地において行った。現地表面下30cmほどに遺物包含層と思われる層が確認されたが、工事は現地表面に50cmの盛砂をし、その上面から40cmを掘り下げて行うものなので、工事による地下の遺物包含層や遺構への影響はないものと判断された。

| | 遺跡名（遺跡No.） | 調査内容 | 原　　因 | 実　施　期　間 | 調査結果・取り扱い |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 木山遺跡(42) | 確認調査 | 工場建設 | ７／23～７／24 | 遺構・遺物とも検出されず、慎重工事。 |
| 2 | 古屋敷遺跡(31) | 確認調査 | 土地区画整理 | ７／29～８／５ | 遺物検出。遺跡の範囲、取扱いについて協議中。 |
| 3 | 下場遺跡(86) | 確認調査 | 店舗建設 | ８／28 | 遺構・遺物とも検出されず、慎重工事。 |
| 4 | 大藪遺跡(41) | 確認調査 | 作業棟建設 | ９／10 | 遺構・遺物とも検出されず、慎重工事。 |
| 5 | 大淵遺跡(16) | 確認調査 | 県営住宅地造成 | 10／15～17・23 | 遺構・遺物とも検出。平成10年度に本格調査を予定。 |
| 6 | 向山遺跡(22) | 確認調査 | 鉄骨ハウス建設 | 11／11～13・18・19 | 遺構・遺物とも検出されず、慎重工事。 |
| 7 | 直り山Ｂ遺跡(61) | 確認調査 | 自治会館建設 | 12／18 | 遺物検出。工事による遺跡への影響はないものと判断。慎重工事。 |
| 8 | 猿ヶ馬場Ａ遺跡(15) | 確認調査 | 店舗建設 | ２／５ | 遺構・遺物とも検出されなかった。 |
| 9 | 山木戸遺跡(112) | 立会い調査 | 個人住宅建設 | ３／16 | 工事による遺跡への影響はないと判断。 |
| 10 | 石動遺跡(85) | 本格調査 | 県道拡幅工事 | ４／17～７／18 | 弥生～平安時代を中心とする遺構・遺物検出。 |
| 11 | 大淵遺跡(16) | 本格調査 | 県営住宅地造成 | ８／19～11／28 | 平安時代（９～10世紀）を中心とする遺構・遺物検出。 |

平成９年度管内調査概要　遺跡番号については第１図を参照。

| 遺跡No. | 名　称 | 時　代 |
|---|---|---|
| 1 | 中　山 | 縄文・古墳～平安 |
| 2 | 荒　所　A | 縄文 |
| 3 | 六　地　山 | 弥生・奈良・平安・鎌倉 |
| 4 | 神　谷　内 | 奈良・平安 |
| 5 | 東港太郎代 | 奈良・平安 |
| 6 | 新　崎 | 奈良平安 |
| 7 | 笹　山　前 | 縄文前期～中世 |
| 8 | 茗　荷　谷 | 奈良・平安 |
| 9 | 彦　七　山 | 奈良・平安 |
| 10 | 金　塚　山 | 奈良・平安 |
| 11 | 前　山 | 奈良・平安 |
| 12 | 出　山 | 奈良・平安・鎌倉・江戸 |
| 13 | 丸　山 | 平安 |
| 14 | 直　り　山　A | 平安 |
| 15 | 猿ヶ馬場A | 平安・室町 |
| 16 | 大　淵 | 平安・中世 |
| 17 | 居　浦　郷 | 平安 |
| 18 | サン化学前 | 平安 |
| 19 | 神　明　社　裏 | 平安・中世 |
| 20 | 寺　山 | 平安 |

| 遺跡No. | 名　称 | 時　代 |
|---|---|---|
| 21 | 親　仁　山 | 平安・中世 |
| 22 | 向　山 | 古墳？・平安 |
| 23 | 横　山 | 平安 |
| 24 | 上　船　橋 | 平安 |
| 25 | 築　上　山 | 平安 |
| 26 | 神　中　沢 | 中世 |
| 27 | 赤塚神明社 | 平安 |
| 28 | 城　山 | 縄文・古墳・平安・鎌倉 |
| 29 | 地　蔵　山 | 鎌倉・室町 |
| 30 | 竹　尾 | 中世 |
| 31 | 古　屋　敷 | 室町・江戸 |
| 32 | 緒立城館跡 | 室町・安土桃山 |
| 33 | 神　山 | 縄文 |
| 34 | 欠番．No.31内 | |
| 35 | 宮　浦 | 平安・室町 |
| 36 | 溜　池 | 平安・中世 |
| 37 | 青　山 | 平安 |
| 38 | 西　野 | 平安 |
| 39 | 庚　塚 | 平安 |
| 40 | 親　爺　屋　敷 | 平安 |

| 遺跡No. | 名　称 | 時　代 |
|---|---|---|
| 41 | 大　藪 | 奈良～平安 |
| 42 | 木　山 | 平安・鎌倉 |
| 43 | 赤　塚 | 古墳？ |
| 44 | 士　塚 | 中世？ |
| 45 | 大　藪　塚 | 鎌倉・室町 |
| 46 | 北　山 | 平安 |
| 47 | 細　山　石　仏 | 室町 |
| 48 | 北　蒲　原　A | 縄文・平安 |
| 49 | 石　ナ　ゲ　山 | |
| 50 | 屋　敷　浦 | 弥生・奈良・平安 |
| 51 | 屋　敷　添 | 平安 |
| 52 | 高　山 | |
| 53 | 前　田 | 平安～室町 |
| 54 | 茶　畑 | 縄文・平安 |
| 55 | ヤ　マ　サ　キ | 縄文・弥生・中世 |
| 56 | 伝　念　野　毛 | 鎌倉・室町 |
| 57 | 茨　曽　根 | 奈良～室町 |
| 58 | 木　山　墓　所 | 縄文 |
| 59 | 尼　池 | 鎌倉・室町 |
| 60 | 観　音　原 | 縄文 |

| 遺跡No. | 名　称 | 時　代 |
|---|---|---|
| 61 | 直　り　山　B | 平安 |
| 62 | 猿ヶ馬場B | 鎌倉・室町・江戸 |
| 63 | 坂　田 | 平安・中世 |
| 64 | 上　谷　地　A | 平安 |
| 65 | 病　院　脇 | 平安 |
| 66 | 上　谷　地　B | 平安 |
| 67 | 沼 | 平安 |
| 68 | 欠番．No.48内 | |
| 69 | 欠番．No.48内 | |
| 70 | 欠番．No.71内 | |
| 71 | 北　蒲　原　B | 平安 |
| 72 | 欠番．No.71内 | |
| 73 | 荒　所　B | 平安 |
| 74 | ツ　ル　子　A | 平安 |
| 75 | 吹　荒　地 | 平安 |
| 76 | ツ　ル　子　B | 平安 |
| 77 | ツ　ル　子　4 | 縄文・平安 |
| 78 | 欠番．No.41内 | 中世（古銭出土地） |
| 79 | 鳥　屋　野 | 中世 |
| 80 | 石　仏　山 | 中世 |

| 遺跡No. | 名　称 | 時　代 |
|---|---|---|
| 81 | 法　華　塚 | 江戸？ |
| 82 | 津島屋の石仏 | 南北朝 |
| 83 | 竹　尾　西 | 平安 |
| 84 | 本所居館跡 | 室町 |
| 85 | 石　動 | 弥生・古墳・平安・中世 |
| 86 | 下　場 | 平安・中世 |
| 87 | 江　口　館　跡 | 不明 |
| 88 | 小　丸　山 | 縄文・平安・中世・近世 |
| 89 | 茗荷谷墓地 | 平安 |
| 90 | 欠番．No.13内 | |
| 91 | 清　水　が　丘 | 平安 |
| 92 | 大　道　外 | 平安・中世 |
| 93 | 女　池　稲　荷 | 平安 |
| 94 | 愛　宕　の　塚 | 中・近世？ |
| 95 | 石山の石仏 | 中世 |
| 96 | 沢　田 | 中世 |
| 97 | 前　田 | 中世 |
| 98 | 高　山　西 | 中世 |
| 99 | 道　下 | 中世・近世 |
| 100 | 内野潟端A | 中世 |

| 遺跡No. | 名　称 | 時　代 |
|---|---|---|
| 101 | 内野潟端B | 中世 |
| 102 | 藤　蔵　新　田 | 中世 |
| 103 | 原　付 | 平安 |
| 104 | | 中世（古銭出土地） |
| 105 | | 中世（古銭出土地） |
| 106 | | 中世（古銭出土地） |
| 107 | | 中世（古銭出土地） |
| 108 | | |
| 109 | 岡山の石仏 | 中世 |
| 110 | 松　山 | 中世 |
| 111 | 松　山　向　山 | 平安 |
| 112 | 山　木　戸 | 古墳・平安・中世 |
| 113 | 的　場 | 縄文晩期～中世 |

第１図　遺跡の分布と地形概念（１：152,000）

# Ⅱ　木山（きやま）遺跡範囲確認調査

1　調 査 地：新潟市木山字前田865ほか

2　調査期間：７月23日～７月24日

3　調査面積：調査対象面積840㎡　調査面積69㎡（調査対象面積の約８％）

4　調 査 員：廣野　耕造・朝岡　政康

5　遺跡の概要と調査経過

(1)　遺跡の概要と既往の調査

遺跡の概要　木山遺跡は古くから知られる遺跡で、新砂丘Ⅱ－ｂ列（御手洗潟北岸の砂丘列延長）の砂丘列南斜面に立地し、推定範囲は約62,700㎡と広い。

既往の調査　昭和54年度の分布調査では、鎌倉期の遺物の散布が確認され、農業用水掘を掘ったところ土器が点々と出土したという聞き取り調査の報告がされている。近年の調査は全て開発に契機を持つものであるが平成６年度に分布調査が、平成８年度には確認調査、立ち会い調査が行われているが遺物・遺構は検出されなかった。

(2)　調査に至る経緯

木山遺跡の範囲内にある漬物工場の工場拡張計画があり、建設予定工場の土木工事が地下に及ぶため、遺跡の範囲・遺存状況・開発の遺跡への影響を確認するため調査を実施することとなった。

(3)　調査の方法と調査結果

調査の方法　漬物工場の建設予定地（調査時は畑地）を中心に幅２～３ｍ、長さ３～４ｍのトレンチを任意に９ヶ所設定した。各トレンチの調査には0.4㎥級のバックホウを使用し、１回に10～20㎝ずつ掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認に努めながら基盤層が出るまでか、または崩落の危険を避けるため地表面から２ｍまでを限度として掘り下げた。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し記録にとどめた。

調査結果　どのトレンチも１層と２層の間に含水層があり、そこから多量の水がしみ出すためトレンチは直ちに崩落し、精査や記録作業は困難を極めた。当該調査範囲の土層は３層から成り（図３参照）、１層の盛砂にはゴム、発砲スチロール、ビニール等が含まれていた。全トレンチにおいて遺構・遺物はいっさい検出されなかった。以上のことから、当該調査範囲は木山遺跡の範囲には入らないと考えられる。

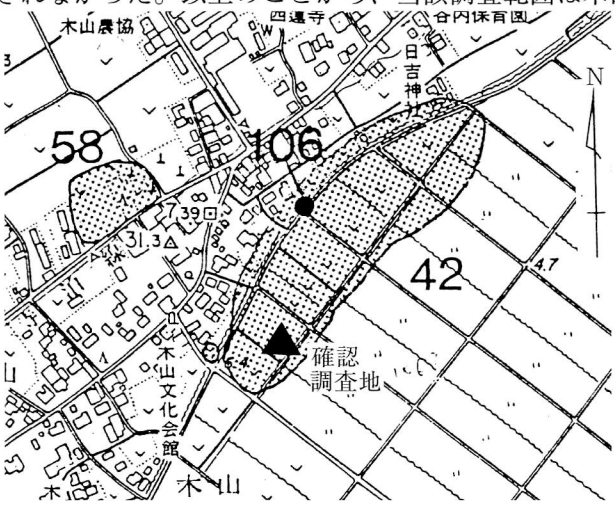



図１　木山遺跡周辺図　№42木山遺跡
Ｓ＝１／10,000

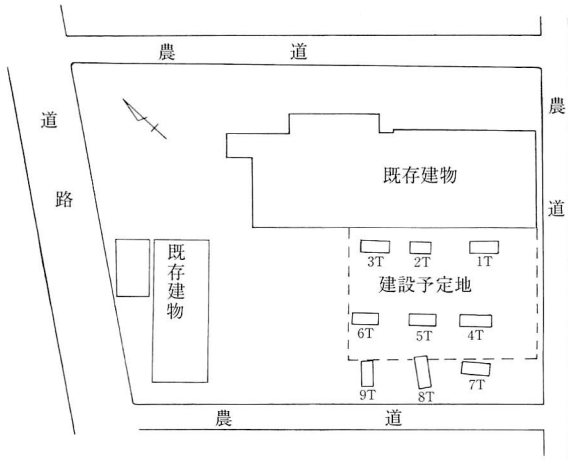



図２　トレンチ配置図　Ｓ＝１／1,200

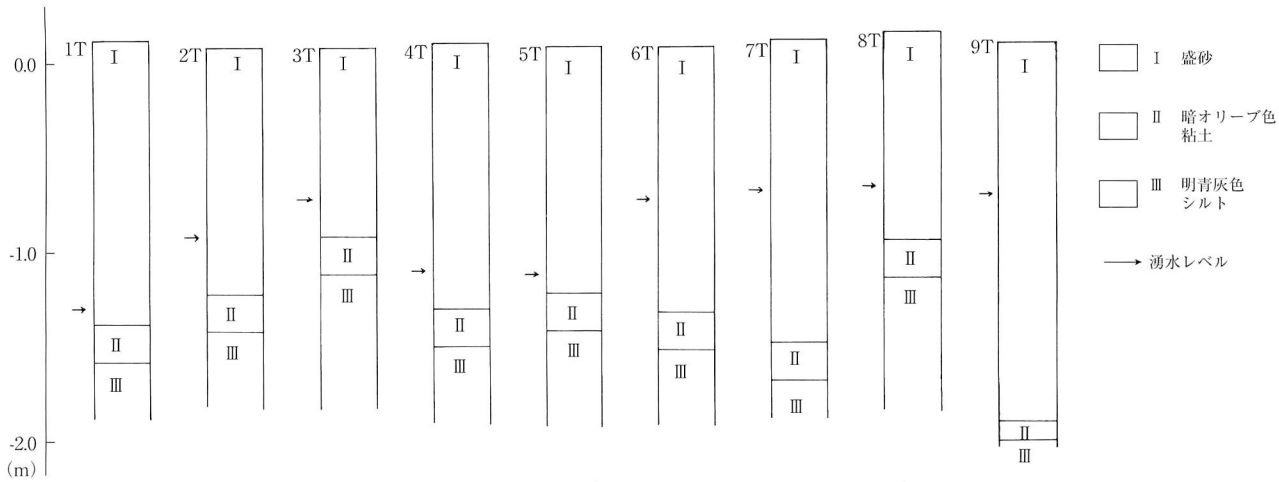
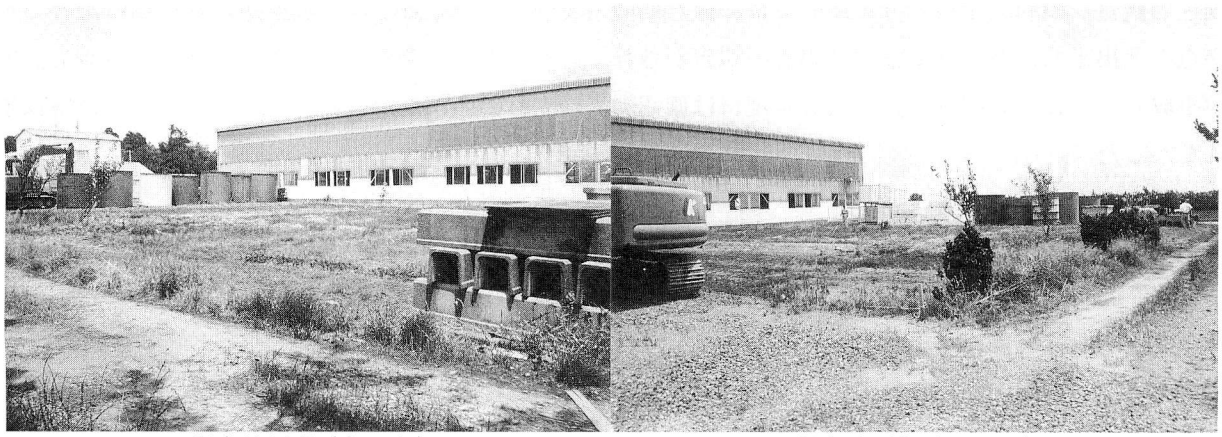



図３　土層柱状図（絶対高の計測は省略した。）



調査地近景（南から）　　調査地近景（北から）

２Ｔ　調査状況　　３Ｔ　調査状況

# Ⅲ　古屋敷（ふるやしき）遺跡範囲確認調査

1　調 査 地：新潟市松崎字東353ほか

2　調査期間：７月29日～８月５日

3　調査面積：調査対象面積275,000㎡　調査面積312㎡（調査対象面積の約0.1%）

4　調 査 員：廣野　耕造・朝岡　政康

5　遺跡の概要と調査経過

(1)　遺跡の概要と既往の調査

遺跡の概要　古屋敷遺跡は、通船川右岸の自然堤防上に立地する。道路工事等により昭和30年に須恵器片が、同33年には須恵器皿が発見され、また新潟郷土史研究会会員が土師器・須恵器を発見している。

既往の調査　昭和60年に土地区画整理事業計画に伴う範囲等確認調査が実施され、52,000㎡が遺跡の推定範囲とされた。ただし、この調査で出土した遺物のほとんどは近世陶磁器で、ほかには同一地層からわずかに中世の遺物（珠洲焼など）が発見された程度で、古代の遺物はみられなかった。遺構もいくつか検出されたが、明確に古代・中世のものと確認されたものはない。その後、平成４年に分布調査及び試掘調査、平成５・６年に分布調査、平成８年に道路工事に伴う確認調査がそれぞれ実施されたが、上記の所見を変更するような結果は得られていない。

(2)　調査に至る経緯

松崎土地区画整理組合設立準備委員会（仮称）による土地区画整理の計画に伴い、既往の調査の結果を踏まえ、遺跡の取扱いについて最終的な結論を得るため、調査を実施することとなった。

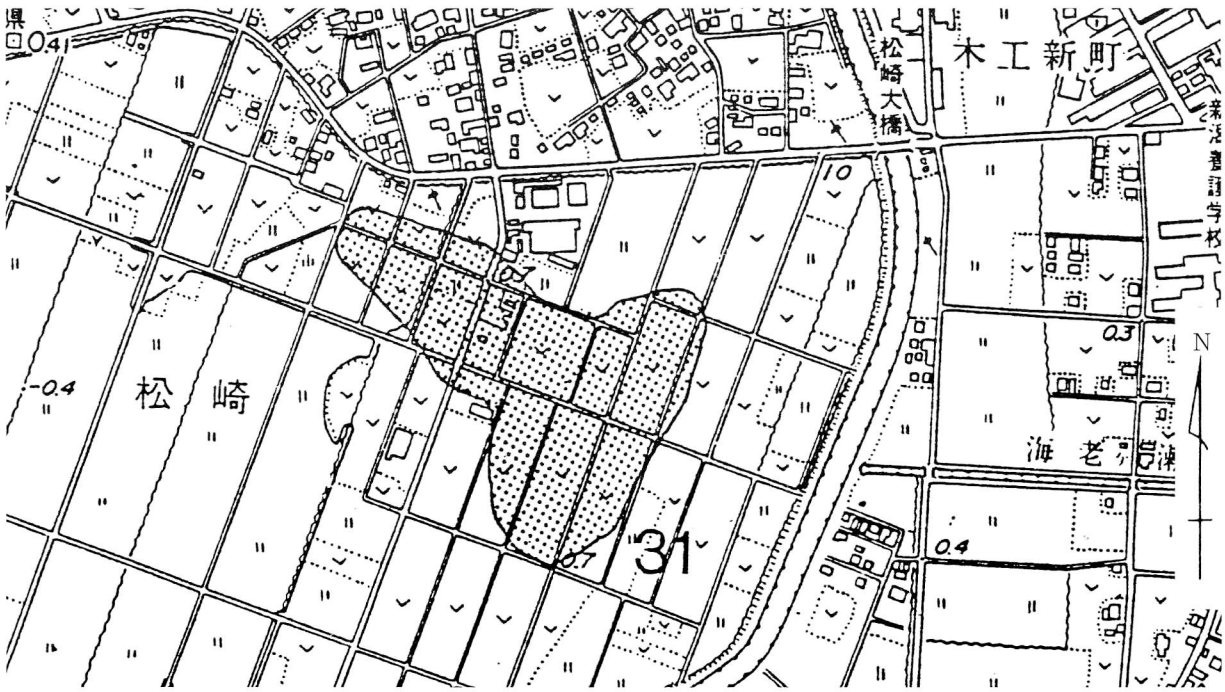



図１　遺跡周辺図　№31古屋敷遺跡　Ｓ＝１／7,500

### (3) 調査の方法と調査結果

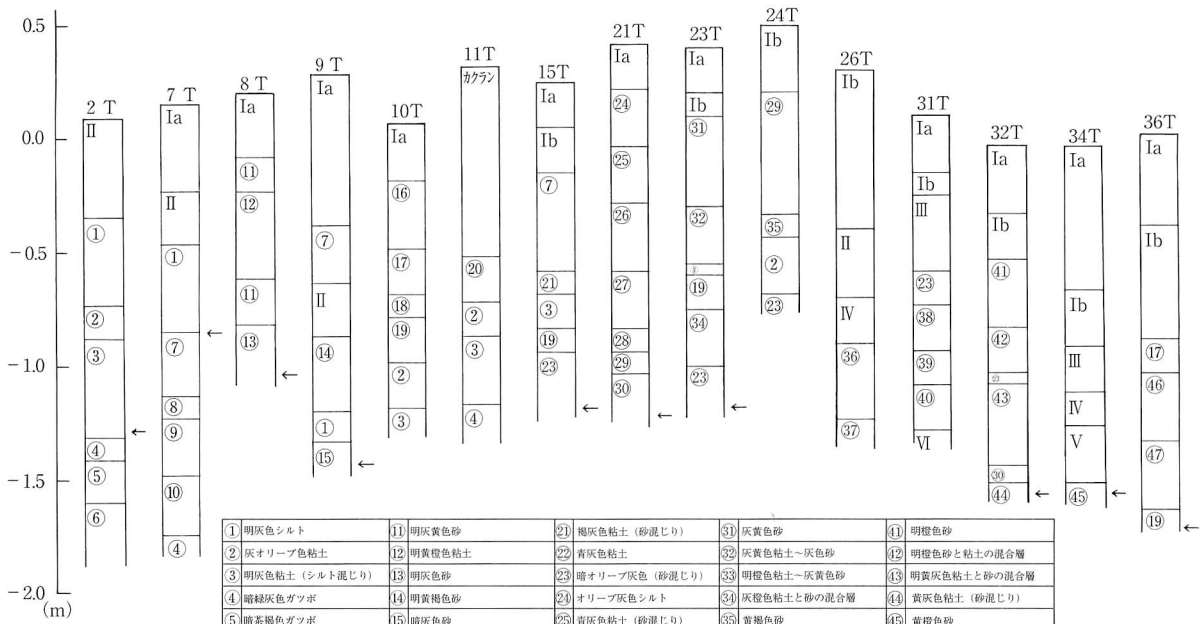
**調査の方法**　調査対象範囲のうち、昭和60年の確認調査で遺跡の範囲とされた部分を中心に、２ｍ×４ｍのトレンチを任意の位置に設定し、39ヶ所について調査を行った。各トレンチの掘削には0.25㎥級のバックホウを使用し、遺構・遺物の有無を確認しながら、基盤層が露出するまでか、または崩落の危険を避けるため地表面から深さ２ｍまでを限度として、一回に10～20㎝ずつ土層を掘り下げた。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

**調査結果**　調査範囲内では、河川の氾濫に由来すると考えられる多量の粘土層が厚く堆積している上、耕作に伴う客土や天地返し等によって著しく土層が乱されているため、全てのトレンチの土層について統一的に把握するのは難しい。土層の様子については土層観察表、および図２に示したとおりである。分層は昭和60年の確認調査時の所見を参考にしたが、それをさらに細分する形で行い、名称等は統一していない。全体の傾向としては、表土及び盛砂の下に砂層が続き、基盤層はⅥ層（黄褐色砂）と考えられる。多くのトレンチで、地表面下1.2m付近から多量の湧水があったため、基盤層の確認は困難であった。

遺物は17ヶ所のトレンチで検出された。土師器片（７ＴⅡ層中）・表面が炭化した板状の木製品（８Ｔ明灰色砂層中）・焼土塊（21Ｔ青灰色粘土層中）のほかは、ほとんど近世陶磁器の細片が表土付近から出土したものである。遺構はいずれのトレンチからも検出されなかった。

土層観察表

| | |
|---|---|
| Ⅰ　層 | 表土 |
| Ⅰａ層 | 黒色土 |
| Ⅰｂ層 | 灰褐色シルト |
| Ⅱ　層 | 盛砂　暗灰黄色砂 |
| Ⅲ　層 | 灰白色砂 |
| Ⅳ　層 | 灰色砂 |
| Ⅴ　層 | 灰オリーブ色砂 |
| Ⅵ　層 | 黄褐色砂 |




| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 明灰色シルト | ⑪ | 明灰黄色砂 | ㉑ | 褐灰色粘土（砂混じり） | ㉛ | 灰黄色砂 | ㊶ | 明橙色砂 |
| ② | 灰オリーブ色粘土 | ⑫ | 明黄橙色粘土 | ㉒ | 青灰色粘土 | ㉜ | 灰黄色粘土～灰色砂 | ㊷ | 明橙色砂と粘土の混合層 |
| ③ | 明灰色粘土（シルト混じり） | ⑬ | 明灰色砂 | ㉓ | 暗オリーブ灰色（砂混じり） | ㉝ | 明橙色粘土～灰黄色砂 | ㊸ | 明黄灰色粘土と砂の混合層 |
| ④ | 暗緑灰色ガツボ | ⑭ | 明黄褐色砂 | ㉔ | オリーブ灰色シルト | ㉞ | 灰橙色粘土と砂の混合層 | ㊹ | 黄灰色粘土（砂混じり） |
| ⑤ | 暗茶褐色ガツボ | ⑮ | 暗灰色砂 | ㉕ | 青灰色粘土（砂混じり） | ㉟ | 黄褐色砂 | ㊺ | 黄橙色砂 |
| ⑥ | 暗灰褐色ガツボ | ⑯ | 黄灰色土 | ㉖ | 明青灰色粘土（砂混じり） | ㊱ | 灰褐色砂（粘土混じり） | | |
| ⑦ | 灰黄色粘土 | ⑰ | 灰黄色シルト | ㉗ | 灰色粘土 | ㊲ | 灰褐色粘土（明橙色砂混じり） | | |
| ⑧ | 暗灰色～橙色粘土 | ⑱ | 青灰色シルト | ㉘ | 灰黄色粘土 | ㊳ | 暗オリーブ緑色粘土 | | |
| ⑨ | 暗灰色粘土 | ⑲ | 灰橙色粘土 | ㉙ | 青灰色砂 | ㊴ | 暗茶褐色土 | | |
| ⑩ | オリーブ灰色粘土 | ⑳ | 暗緑灰色粘土（砂混じり） | ㉚ | 灰褐色砂 | ㊵ | 灰褐色粘土と砂の混合層 | | |

図２　土層柱状図（抜粋）

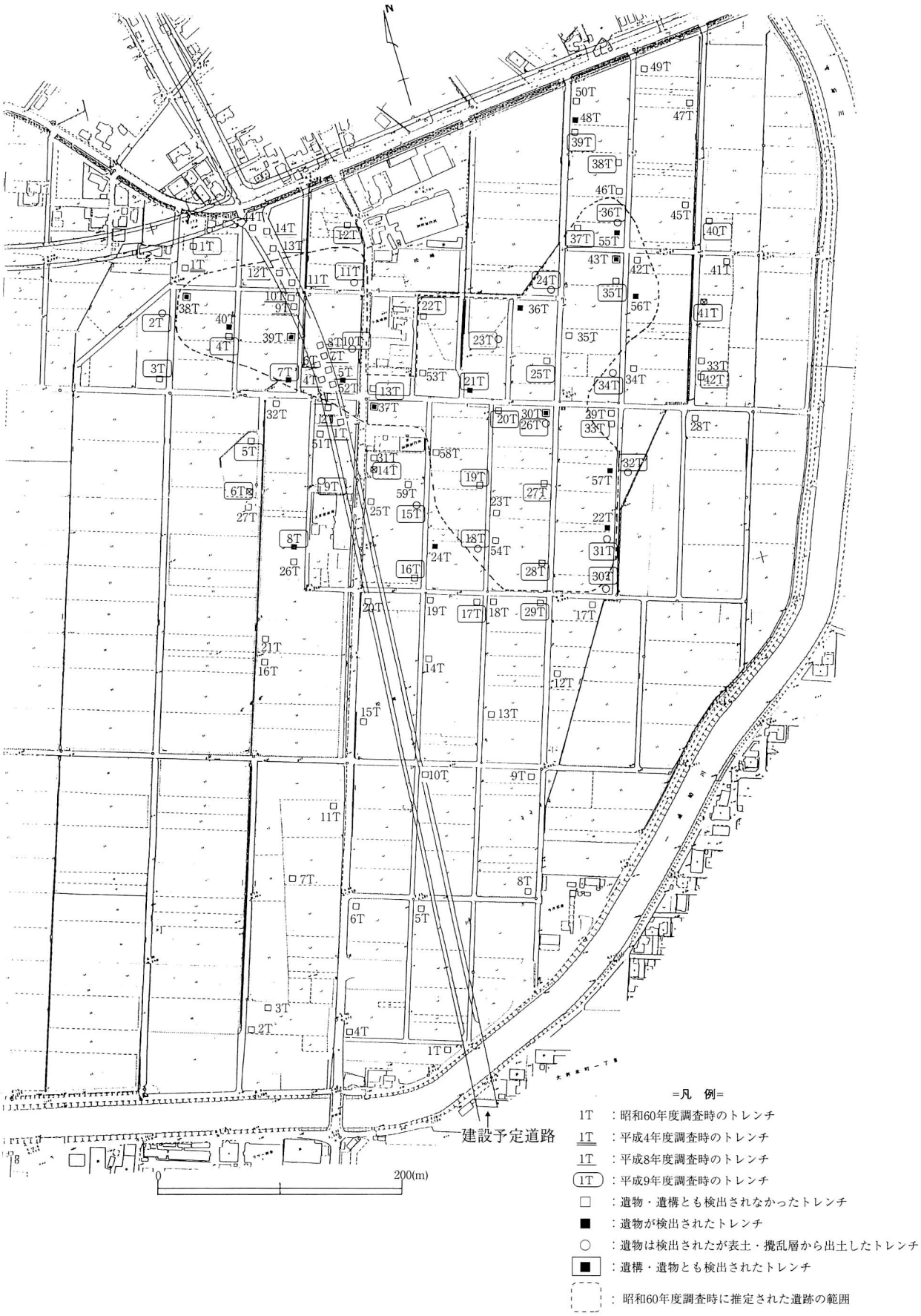


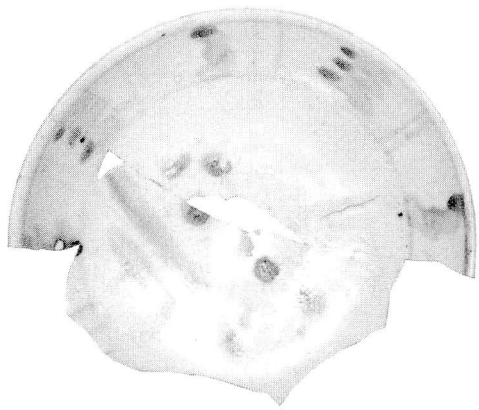

図３　昭和60年～平成９年の調査におけるトレンチ配置図および結果

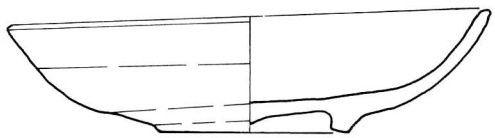
6　まとめ　古屋敷遺跡については、すでに昭和60年の調査報告で「採集遺物はきわめて希薄である」とされている。以後平成８・９年に実施された確認調査も含め、総計113ヶ所のトレンチが調査されたが、調査規模に比して遺物は少なく、特に古代・中世のものは非常にまれである。遺構も前述のとおり古手のものは事実上皆無といってよい。古屋敷遺跡の規模は、今回の調査で古代の遺物が検出されたトレンチを中心に、従来よりさらに縮小して把握するのが妥当と思われる（図４参照）。また、これまで表面採集を含め得られてきた古代・中世の遺物についても、通船川などの氾濫によって他所からもたらされたもので、原位置を保っていない可能性が高い。今後の開発行為に際しては、工事立ち会いで対処するのが適当と考えられる。

（遺物）

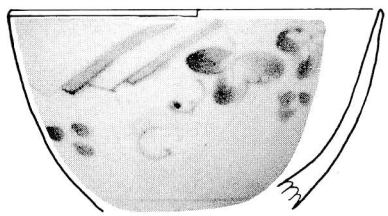
実測図は遺物写真①の５と２である。５は伊万里系陶器の畳付皿である。皿内面にのみ染付けがされている。18ｃ以降のものと思われる。２は５と同時期と思われる伊万里系陶器の椀で外面にのみ染付けがされている。写真②の９は土師器片、10・11は焼土塊であるがともに細片にて詳細等は不明である。また写真③の板状木製品も残存部少なく詳細は不明である。

写真①の１～５、写真②の１～６は伊万里系陶器、写真②の７、８は唐津系陶器の細片である。

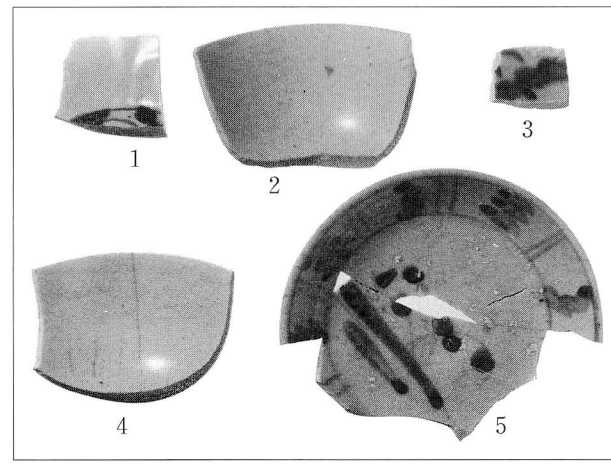




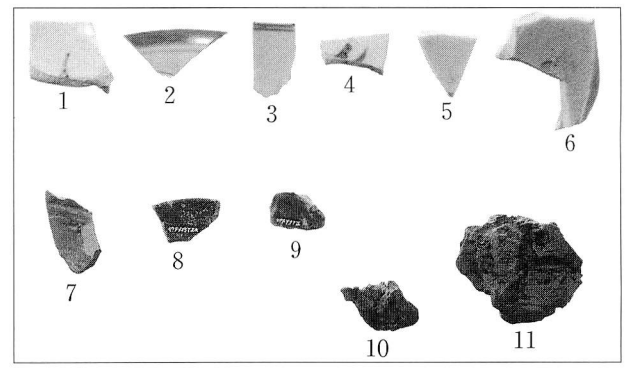
5　　S＝1／2



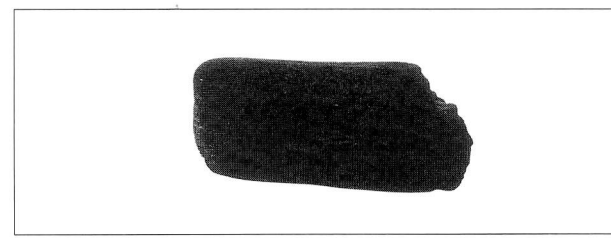
2　　S＝1／2




写真①　　S＝1／3




写真②　　S＝1／3



写真③　　S＝1／3

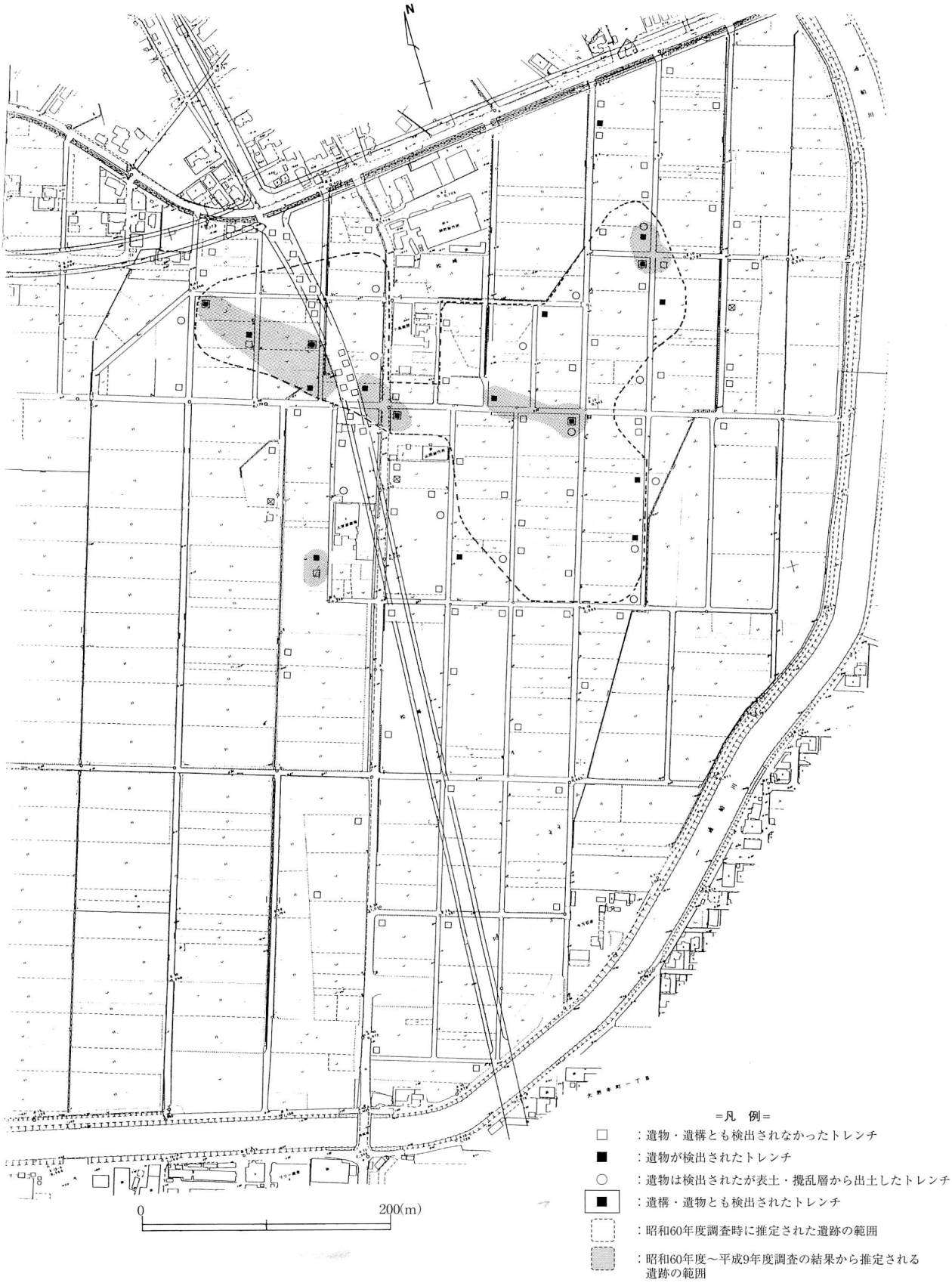
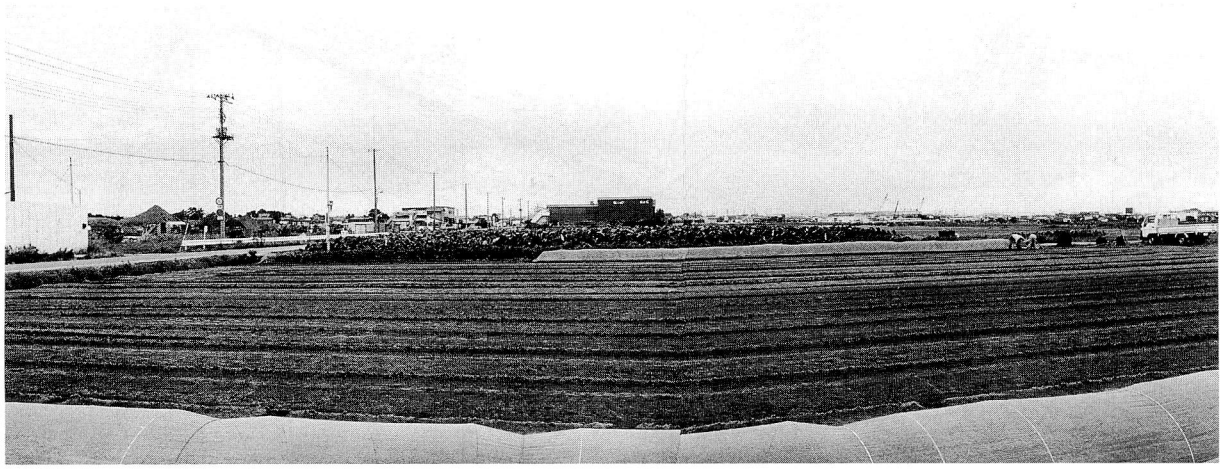
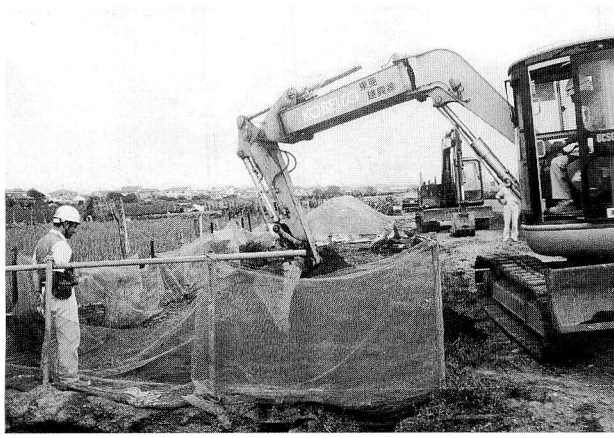

N
0
200(m)
=凡　例=
：遺物・遺構とも検出されなかったトレンチ
：遺物が検出されたトレンチ
：遺物は検出されたが表土・攪乱層から出土したトレンチ
：遺構・遺物とも検出されたトレンチ
：昭和60年度調査時に推定された遺跡の範囲
：昭和60年度～平成9年度調査の結果から推定される
遺跡の範囲

図４　範囲再考図





古墳試掘調査
4T(南側より)
97.08.05

古墳試掘調査
8T(西側より)
970805

古墳試掘調査
2.5T(南側より)
97.07.30

# Ⅳ　下場（げば）遺跡範囲確認調査

1　調 査 地：新潟市下場本町210番地７ほか

2　調査期間：８月28日

3　調査面積：調査対象面積420.84㎡　調査面積24㎡（調査対象面積の約６％）

4　調 査 員：廣野　耕造

5　遺跡の概要と調査経過

(1)　遺跡の概要と既往の調査

遺跡の概要　下場遺跡は昭和60年度の分布調査により発見された遺跡で、土師質の土器細片が採集されている。石山砂丘（阿賀野川以東の新砂丘Ⅱ－２列に対比）の砂丘列上に立地し、推定面積は約2,500㎡である。

既往の調査　近年当遺跡に係る調査は開発計画や工事計画を契機として行われている。平成４年度は分布調査と立会い調査が、平成５年度は分布調査・試掘調査が行われた。平成６年度は分布調査・立会い調査が行われ、平成７年度と８年度は当遺跡に係る調査は行われていない。いずれの調査も遺構・遺物・遺物包含層は確認されていない。

(2)　調査に至る経緯

下場遺跡の範囲内にある畑地に貸店舗の建設が計画され、建設予定建物の土木工事が地下に及ぶため、遺跡の範囲・遺存状況・開発の遺跡への影響を確認するため調査が実施された。

(3)　調査の方法と調査結果

調査の方法　建設予定範囲を中心に幅２ｍ、長さ４ｍのトレンチを任意に３ヶ所設定した。各トレンチは0.25㎡級のバックホウを使用し、１回に10～20㎝ずつ掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めながら基盤層が露出するまでか、または崩落の危険を避けるため地表面から２ｍまでを限度として掘り下げた。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し記録にとどめた。

調査結果　土層の様子（図３参照）は、２Ｔおよび３Ｔで確認された盛砂は人為的なものと思われる。また１Ｔ・３Ｔと２Ｔとでは基盤砂層のレベルが著しく違うのと、２Ｔで厚いガツボの堆積が観察されることから、基盤砂層は調査範囲の東側に向かって落ち込んでいると考えられる。全トレンチにおいて遺構・遺物・遺物包含層はいっさい検出されなかった。以上のことより、当該調査範囲は下場遺跡の範囲には入らないと考えられる。

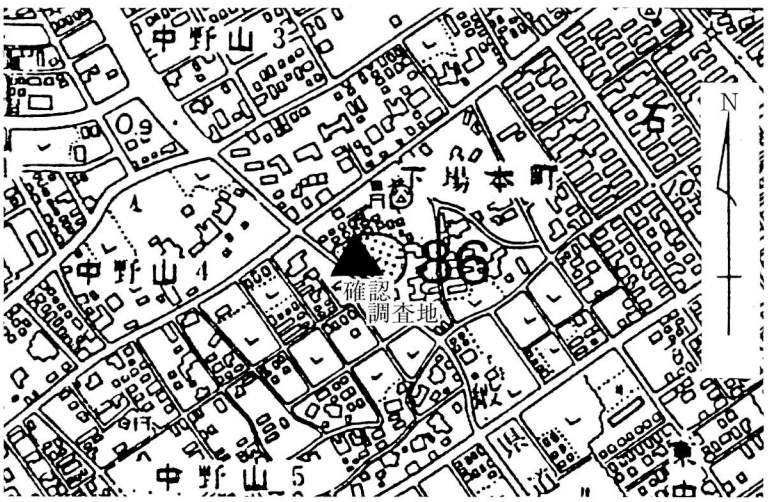



図１　遺跡周辺図▶
№86下場遺跡
Ｓ＝１／7,500

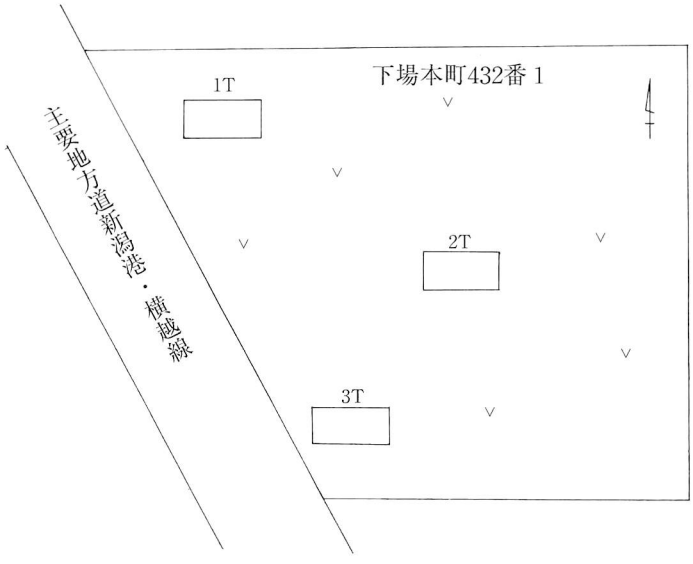



図２　トレンチ配置図　Ｓ＝１／400

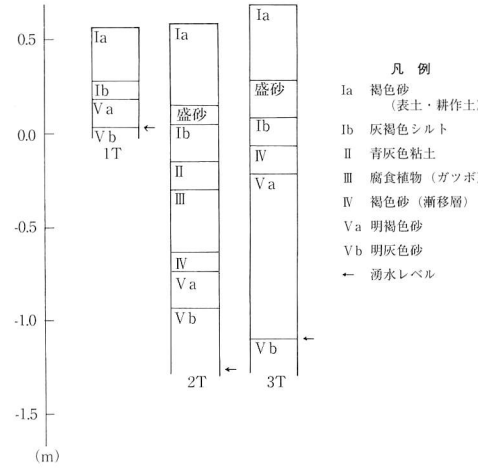
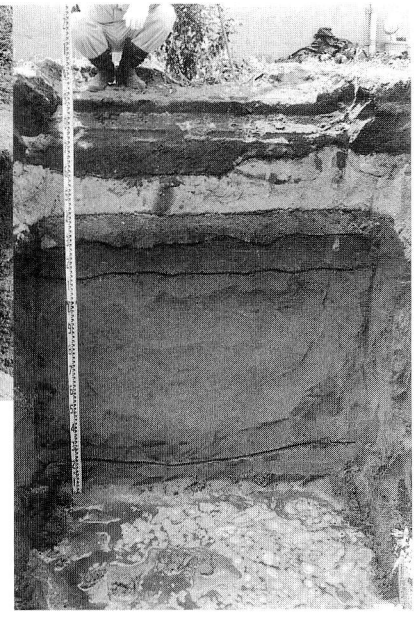



図３　土層柱状図

調査地遠景

１Ｔ　土層堆積状況

２Ｔ　土層堆積状況



３Ｔ　土層堆積状況

# V　大藪（おやぶ）遺跡範囲確認調査

1　調 査 地：新潟市赤塚字江向1893番２ほか

2　調査期間：９月10日

3　調査面積：調査対象面積1,865㎡　調査面積24㎡（調査対象面積の約１％）

4　調 査 員：廣野　耕造

5　遺跡の概要と調査経過

(1)　遺跡の概要と既往の調査

遺跡の概要　大藪遺跡は奈良・平安時代、鎌倉～戦国時代の遺跡として古くから知られている。坂田砂丘（新砂丘Ⅰ－ｆ列）が沖積面に舌状に張り出した砂丘上に位置し、推定範囲は約94,000㎡と広い。

既往の調査　平成元年に新潟市史編さん室が市史編さん調査の一環として発掘調査を行っている。また平成５年度には範囲内で立会い調査・分布調査が、平成６年度には立会い調査が開発計画を契機に行われているが、こちらの調査では遺物等の確認はされていない。

(2)　調査に至る経緯

当該調査地においてたばこ乾燥施設の建設が計画され、当該調査地が大藪遺跡に隣接していることや建設計画の規模等を考慮の上、遺跡の範囲・開発の遺跡への影響を確認する調査を実施することとなった。

(3)　調査の方法と調査結果

調査の方法　建設予定範囲（調査時は畑地）を中心に幅２ｍ、長さ４ｍのトレンチを任意に３ヶ所設定した。各トレンチは0.25㎡級のバックホウを使用し、１回に10～20㎝ずつ掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認に努めながら基盤層が露出するまでか、または崩落の危険を避けるため地表面から２ｍまでを限度として掘り下げた。掘り下げ終了後土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

調査結果　土層の様子については下記の表のとおりである。当該調査範囲の地権者の説明ではかつて水田として利用していたが、減反に際して砂を盛り畑としたとのことであった。下記表のⅠ～Ⅴ層がその盛砂にあたる。平成元年度の発掘調査において大藪遺跡本体で観察された砂丘基盤層もここでは観察されず、当該地は遺跡の範囲外に広がる湿地帯であったものと推定される。遺構・遺物・遺物包含層は全トレンチにおいていっさい検出されなかった。これらのことより当該調査範囲は、大藪遺跡の範囲には入らないと考えられる。

土層観察表

| | |
|---|---|
| Ⅰ層 | 表土・畑耕作土・盛砂。 |
| Ⅱ層 | 暗灰黄色砂。 |
| Ⅲ層 | 灰黄色砂。 |
| Ⅳ層 | 明灰黄色砂。 |
| Ⅴ層 | 明青灰色砂。含水、崩落激しい。 |
| Ⅵ層 | 暗灰色粘土。植物遺体を少量含む。 |
| Ⅶ層 | 暗灰色シルト。植物遺体を少量含む。 |
| Ⅷ層 | 明茶褐色粘土。砂混じり。 |

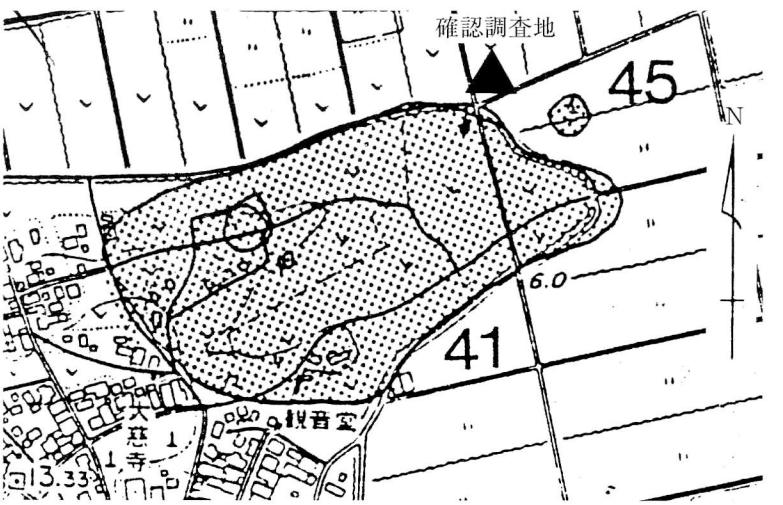



図１　遺跡周辺図　No.41大藪遺跡
S＝１／7,500

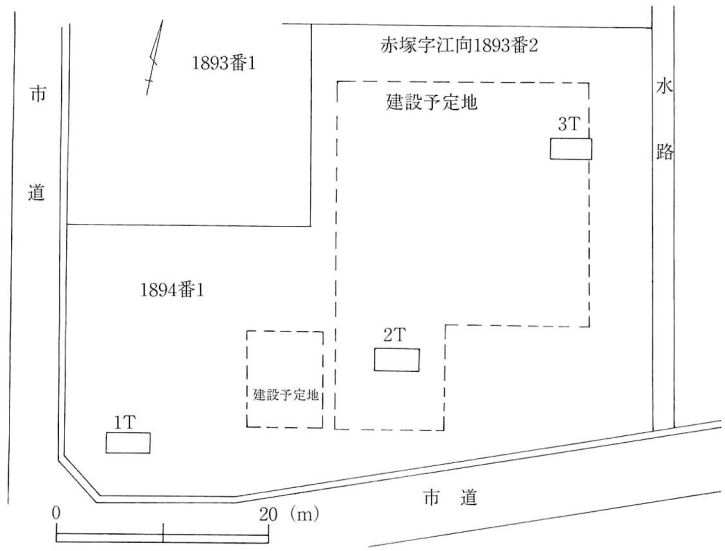



図２　トレンチ配置図

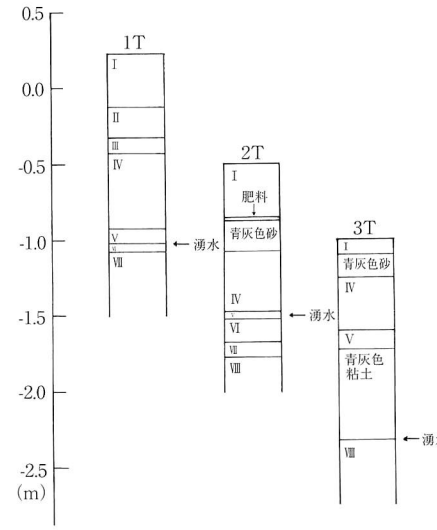
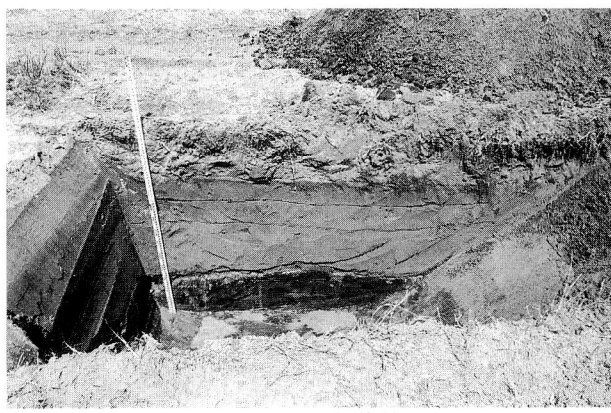



図３　土層柱状図

調査地遠景

１Ｔ　土層堆積状況



２Ｔ　土層堆積状況

３Ｔ　土層堆積状況

# Ⅵ　大淵（おおぶち）遺跡範囲確認調査

1　調 査 地：新潟市大淵字天神浦1538番地ほか

2　調査期間：10月15～17・23日

3　調査面積：調査対象面積13,000㎡　調査面積240㎡（調査対象面積の約８％）

4　調 査 員：廣野　耕造

5　遺跡の概要と調査経過

(1)　遺跡の概要と既往の調査

遺跡の概要　大淵遺跡は、阿賀野川左岸の自然堤防上に立地する。戦前、大淵の集落内にある菅原神社の南側畑地で、深さ1.6mの粘土層から須恵器の薬壺などが発見されたことから、その存在が知られるようになった。

既往の調査　昭和57年に分布調査、平成４年・６年に分布調査、平成８年に範囲確認調査が実施されるなどして遺跡の周知範囲も広がってきており、現在では約75,000㎡となっている。採集遺物は平安時代の須恵器・土師器及び中世の珠洲焼・土師質土器が主なものである。

(2)　調査に至る経緯

大淵小学校南側の水田及び畑地について、新潟県住宅供給公社による宅地開発の計画があり、当該地は大淵遺跡の隣接地に当たるため、遺跡の広がりの有無を確認するため調査を実施することとなった。

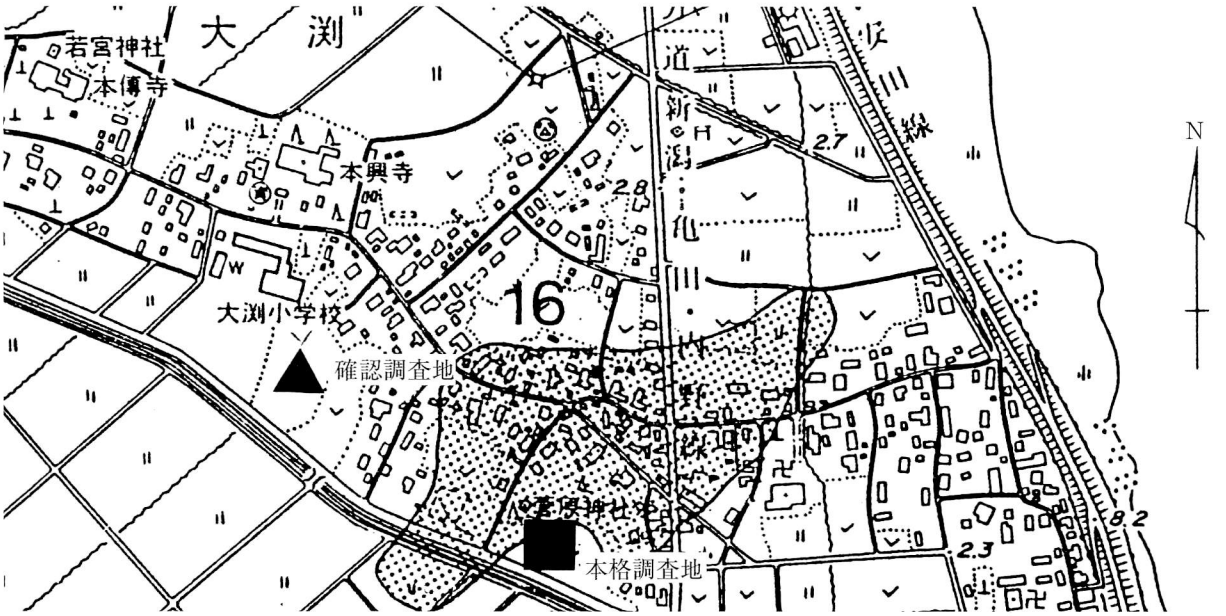



図１　遺跡周辺図　№16大淵遺跡　Ｓ＝１／7,500

# 図２　大淵遺跡トレンチ配置図及び結果

=凡　例=

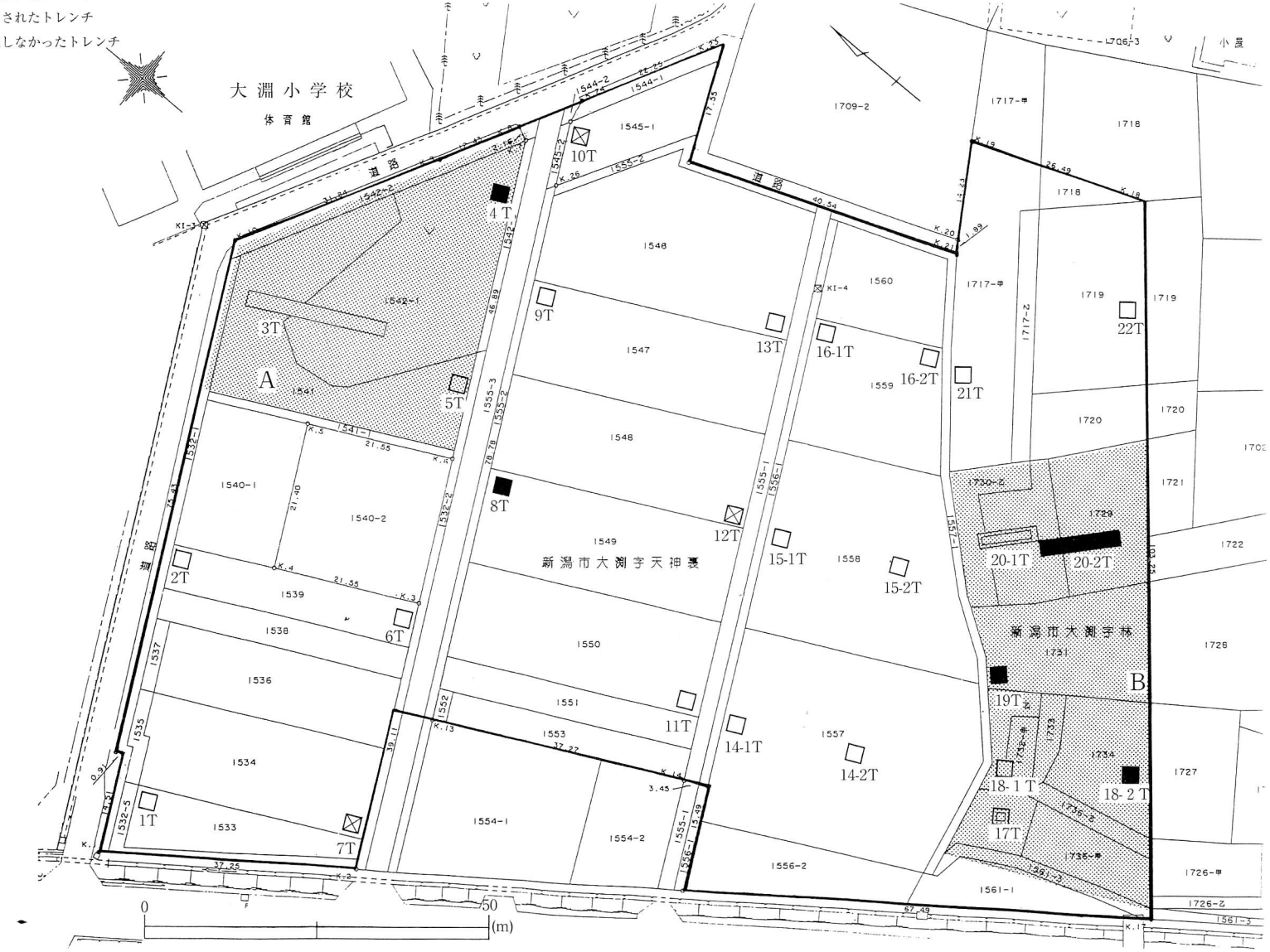
太枠内　：調査対象地

□　遺構、遺物とも検出されなかったトレンチ

■　遺物が検出されたトレンチ

▣　遺構が検出されたトレンチ

⊠　試掘を実施しなかったトレンチ



(3) 調査の方法と調査結果

**調査の方法**　調査対象範囲全域について、幅２ｍ、長さ４～20ｍのトレンチを任意の位置に設定し、合計23ヶ所のトレンチについて調査を実施した。各トレンチの掘削には0.25㎥級のバックホウを使用し、遺構・遺物の有無を確認しながら、基盤層が露出するまでか、または崩落の危険を避けるため地表面から深さ２ｍまでを限度として、一回に10～20cmずつ土層を掘り下げた。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

**調査結果**　土層の堆積状況は、トレンチによって大きく異なるうえ、かなり多様な土層が観察されるものの、一部で砂丘基盤層が確認された。Ⅲ層（漸移層）及びⅣ層（黒色土層）などで平安時代の遺物（須恵器・土師器）及び炭化物細粒が、また灰褐色土層の一部では珠洲焼片が検出され、いずれも遺物包含層と考えられる。また、現在畑として利用されている比較的標高の高い部分（調査範囲南東端）に設定した17及び21－１トレンチでは遺構が検出されている。

土層観察表

| | |
|---|---|
| Ⅰ層 | 表土（耕作土） |
| Ⅱ層 | 盛土 |
| Ⅲ層 | 漸移層（褐色土） |
| Ⅳ層 | 黒色土 |
| Ⅴ層 | 灰褐色・淡褐色シルト |
| Ⅵ層 | 灰・淡褐色粘土 |
| Ⅶ層 | 青灰色粘土 |
| Ⅷ層 | 青灰色シルト |
| Ⅸ層 | 暗褐色砂 |
| Ⅹ層 | 黒褐色砂 |
| Ⅺ層 | 黄褐色砂 |

## 6　まとめ

Ａ地区は本格調査を行っていた大淵遺跡の土層との共通性が高く、遺跡の外縁部である可能性が高いので開発にあっては立会調査を行う必要性があると考えられる。またＢ地区は少量ではあるが遺物・遺構が検出されているため、今回の調査範囲は大淵遺跡の一部をなすと考えられる。そのため、開発に先立って平成10年度に約1,500㎡について本格調査の実施を予定している。

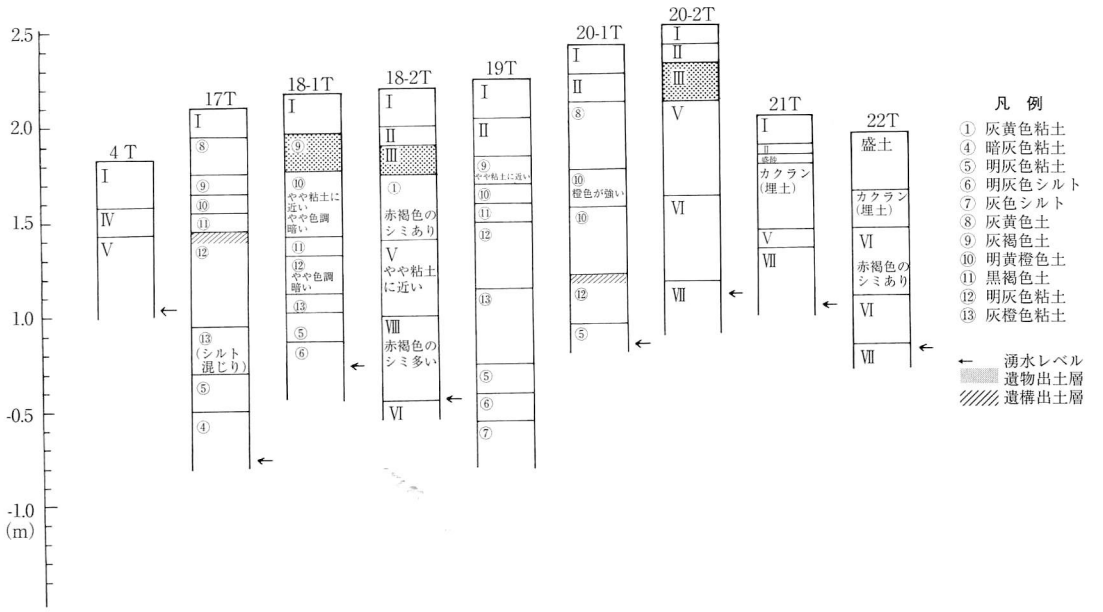


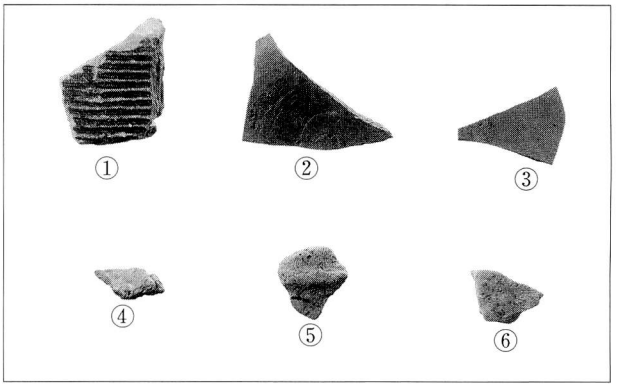

図３　土層柱状図（抜粋）

（遺物）

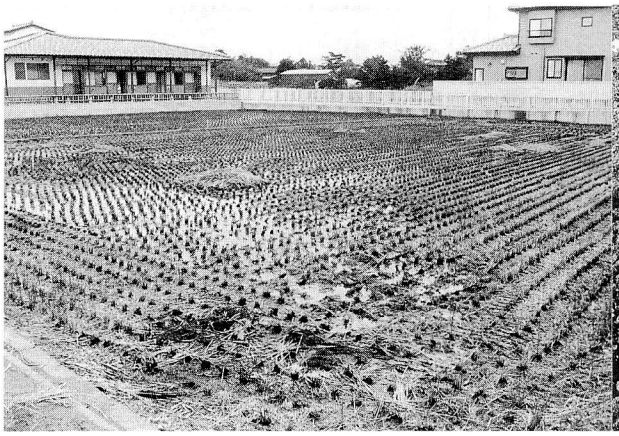
1は珠洲焼で、外面にタタキ痕がある。残存部少なく器種等詳細は不明である。2は須恵器の坏底部である。底部は回転ヘラ切りされている。残存部少なく、詳細は不明である。

1（写真①）　　S＝1／2

2（写真②）　　S＝1／2

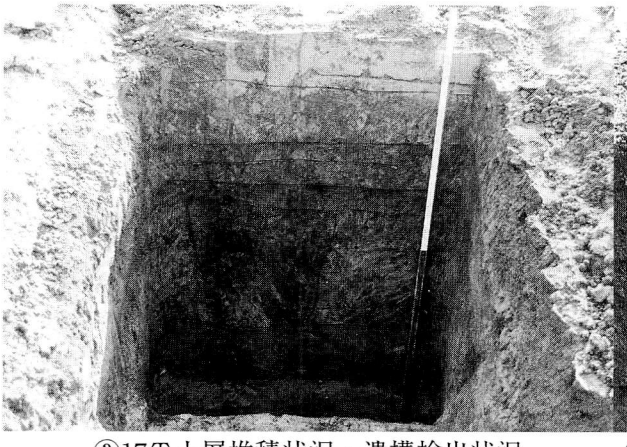



出土遺物　　S＝1／3

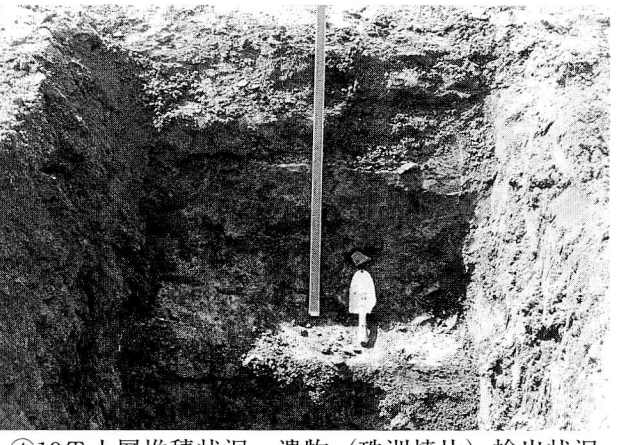


①大淵遺跡調査区

②4Ｔ土層堆積状況

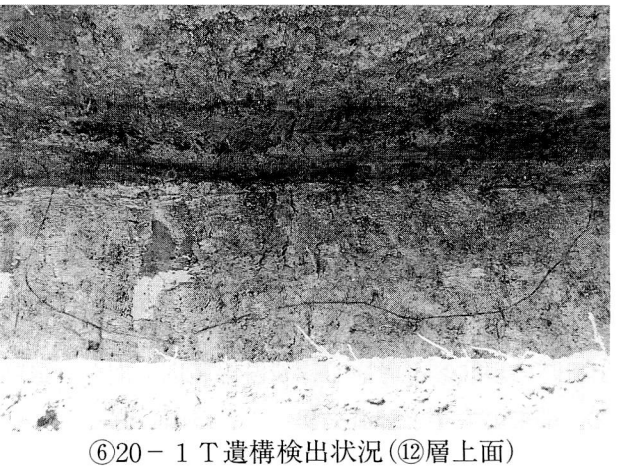


③17Ｔ土層堆積状況・遺構検出状況



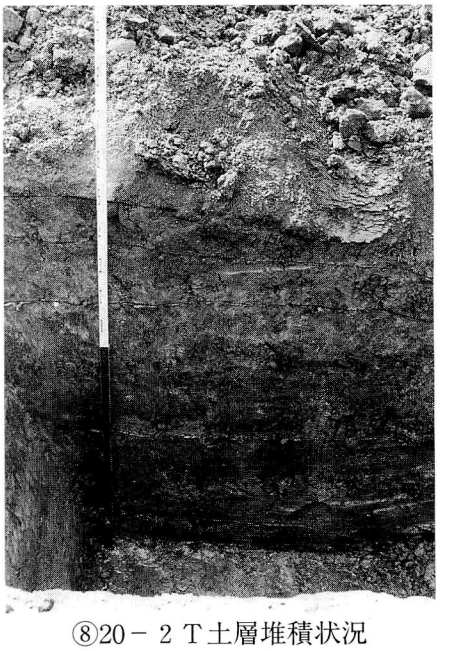
④19Ｔ土層堆積状況・遺物（珠洲焼片）検出状況

⑤20－１Ｔ土層堆積状況



⑥20－１Ｔ遺構検出状況(⑫層上面)

⑦18－２Ｔ土層堆積状況



⑧20－２Ｔ土層堆積状況

# Ⅶ　向山（むかいやま）遺跡範囲確認調査

1　調 査 地：新潟市太夫浜字向山3250ほか

2　調査期間：11月11・12・13・18・19日（５日間）

3　調査面積：調査対象面積11,081㎡　調査面積207㎡（調査対象面積の約1.9%）

4　調 査 員：廣野　耕造

5　遺跡の概要と調査経過

(1)　遺跡の概要と既往の調査

遺跡の概要　向山遺跡は新砂丘Ⅲ－１列上の南斜面に立地し、推定面積は約13,000㎡である。昭和42～43年頃弥生土器の破片が出土したという報告（現在所在不明）や、出土品として須恵器の坏が南浜中学校に所蔵されている等その存在を知られている。

既往の調査　昭和53年に実施された遺跡の現状調査では、太郎代の代替地として付近の砂丘が崩され地形が大幅に変わっているので、地点について調査する必要があり、遺跡破壊されている可能性もあることが報告されている（調査員　酒井和男）。平成６年度には分布調査が行われているが、遺物等の確認はされていない。

(2)　調査に至る経緯

向山遺跡を含む範囲（調査時は山林）において水耕栽培用ハウス等の建設が計画され、建設計画の規模・向山遺跡の現状等を考慮し、遺跡の範囲・開発の遺跡への影響を確認する調査を実施することとなった。

(3)　調査の方法と調査結果

調査の方法　建設予定地、およびその範囲内にある向山遺跡を中心に３×３ｍのトレンチを23ヶ所設定した。各トレンチは0.25㎥級のバックホウを使用し、１回に10～20㎝ずつ掘り下げた。遺構・遺物等の有無の確認に努めながら、基盤層が露出するまでか、または崩落の危険を避けるため地表面から２ｍまでを限度として掘り下げを行った。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し記録にとどめた。

調査結果　土層の様子は図２のとおりである。従来向山遺跡の周知範囲とされていた部分は他所に比べ0.6ｍ程度、あるいはそれ以上標高が高くなっていた。遺構・遺物・遺物包含層は全トレンチにおいていっさい検出されなかった。このことより、当該調査範囲は向山遺跡の範囲ではないと考えられる。

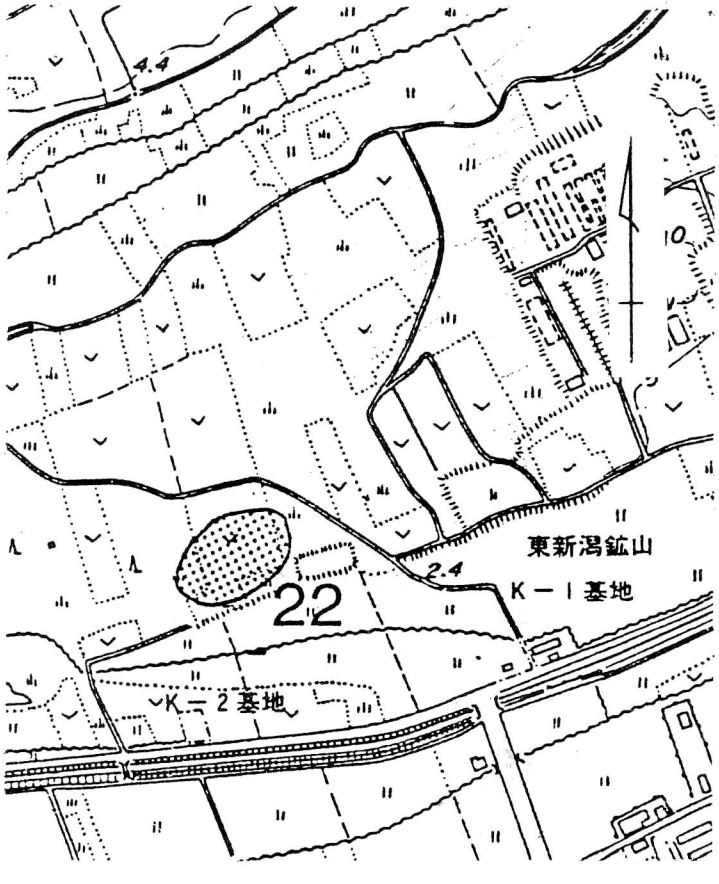



図１　遺跡周辺図▶
No.22向山遺跡
S＝１／7,500

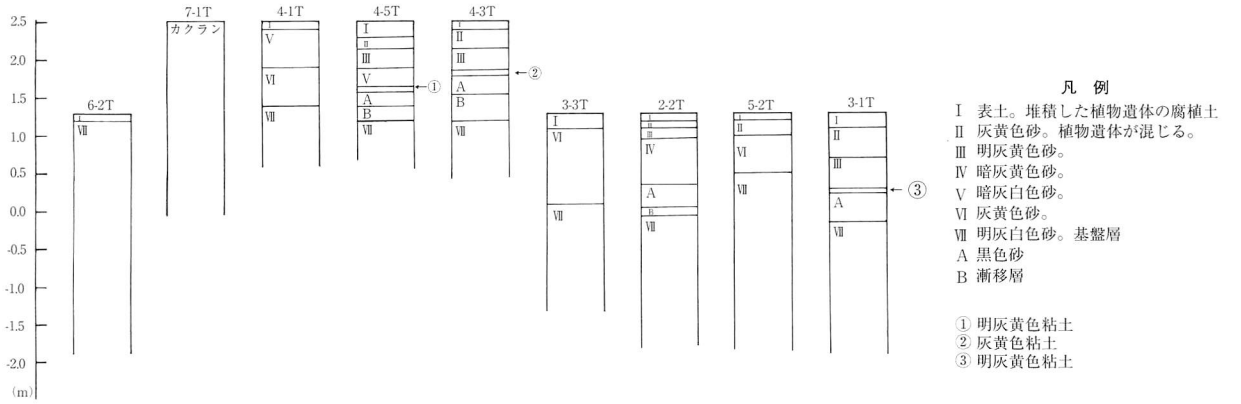



図２　土層柱状図（抜粋）

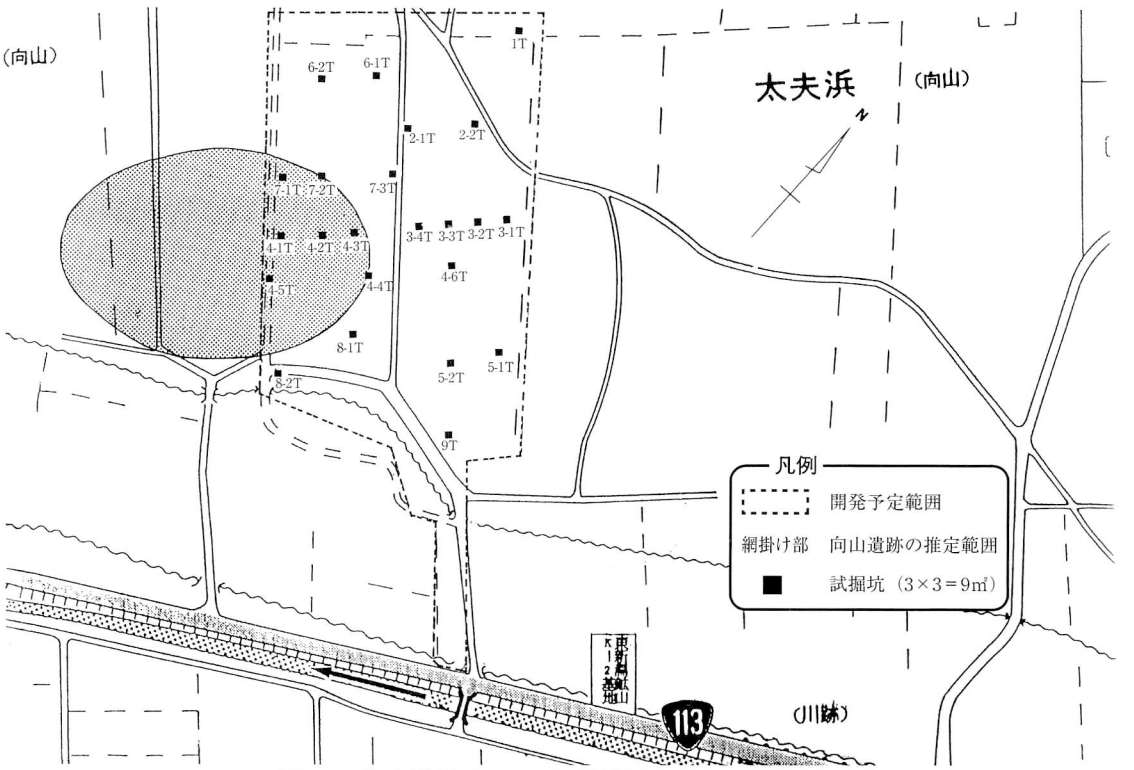
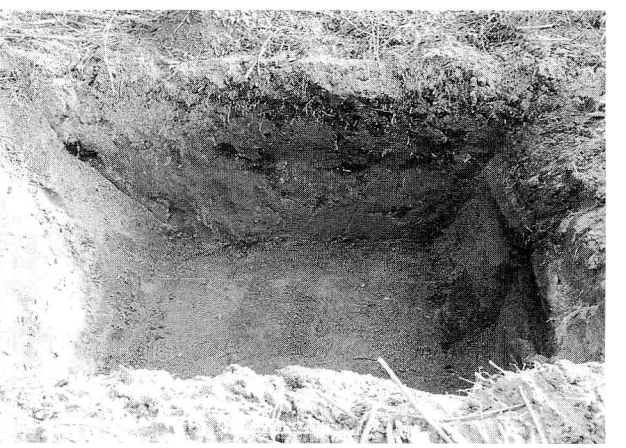



図３　向山遺跡トレンチ配置図　S＝1／14,000

向山遺跡遠景



４－３Ｔ　土層堆積状況

# Ⅷ　直り山（なおやま）Ｂ遺跡範囲確認調査

1　調 査 地：新潟市直り山字小丸山843－１ほか

2　調査期間：12月18日

3　調査面積：調査対象面積309㎡　調査面積30㎡（調査対象面積の約10％）

4　調 査 員：廣野　耕造・朝岡　政康

5　遺跡の概要と調査経過

(1)　遺跡の概要

直り山Ｂ遺跡は直り山西側の砂丘が半島状にのびた北側の水田に広がる遺跡で、近くに昭和61年度に発掘調査を行った小丸山遺跡がある。過去に農地改良工事で水田から完形の須恵器短頸壺（平安時代）が一個発見されたが明確な出土地は不明である。遺跡の範囲は不明確であるが、おおよその推定範囲として約6,300㎡が考えられている。平成６年度に分布調査が行われているが遺物等の確認はされていない。

(2)　調査に至る経緯

直り山Ｂ遺跡の推定範囲内（調査時は畑地）に直り山自治会館の建設が計画されたので、建設計画の内容、遺跡の現状等を考慮し、遺跡の範囲・開発の遺跡への影響を確認する調査を実施することとなった。

(3)　調査の方法

調査対象地に幅２ｍ、長さ８ｍ程のトレンチを２ヶ所設定した。各トレンチは0.25㎥級のバックホウを使用し１回に10～20㎝ずつ掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めながら、基盤層が露出するまでか、または崩落の危険を避けるため地表面から２ｍを限度として掘り下げた。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し記録にとどめた。

6　調査結果

土層の様子は図３の通りであるが、Ⅲ層は黒変した植物遺体を多く含んでいた。各トレンチから遺物が検出され、１ＴはⅢ層から平安時代の須恵器片、土師器片が各１点ずつ検出され、２ＴはⅢ層およびⅣa層から平安時代の土師器片が各１点ずつ検出された。また１ＴのⅡ層からは近世の陶器Ⅲ（唐津焼）が検出された。遺構は１Ｔ・２Ｔともに検出されなかった。

7　まとめ

遺構・遺物の検出状況からみて、従来の遺物包含地としての評価に変更はないが、当該調査範囲においては遺物を検出した層が粘土層であり、この粘土層も実見すると河川の氾濫などにより他から流入してきた可能性が高いと思われる。また検出された遺物も断片的なものでかつ、検出量も少量で検出密度も希薄であった。以上のことから当該調査範囲は集落等の跡とは考えられない。

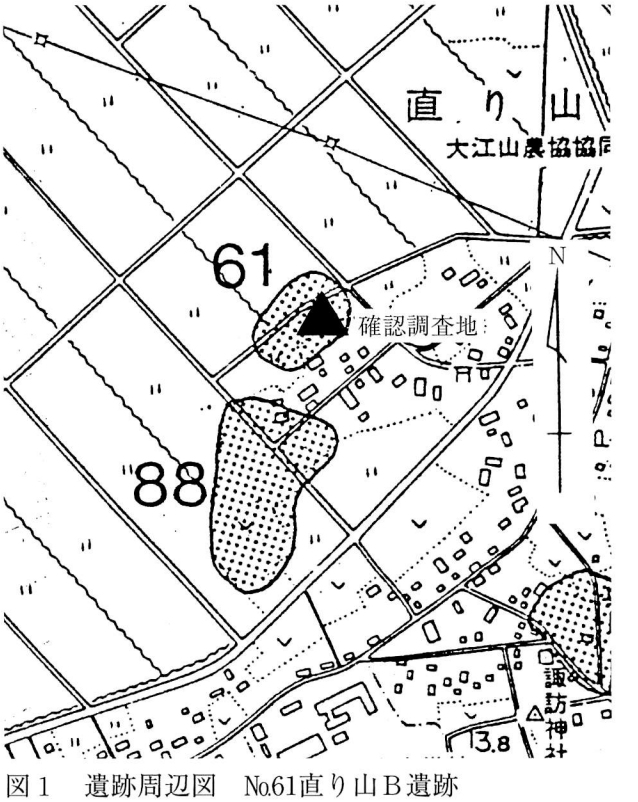



図１　遺跡周辺図　№61直り山Ｂ遺跡
Ｓ＝１／7,500　　（※）№88小丸山遺跡

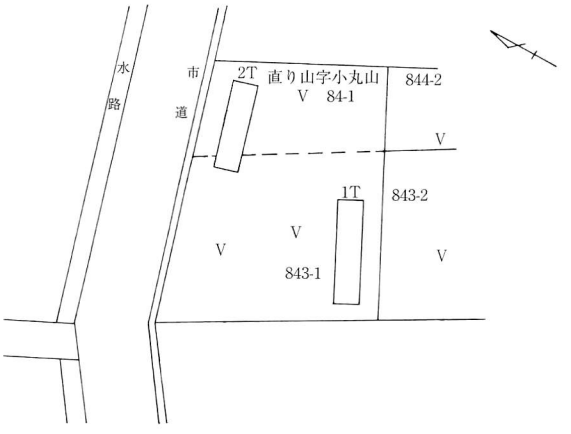



図２　トレンチ配置図　S＝１／600

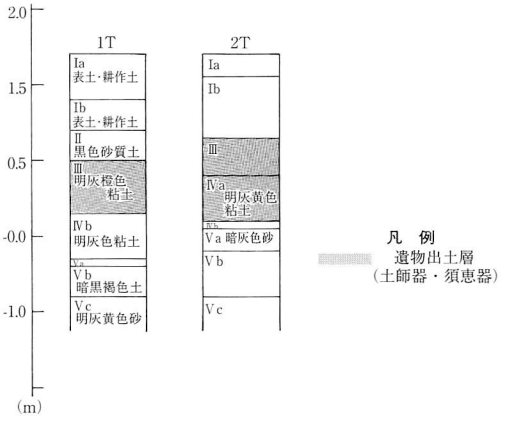
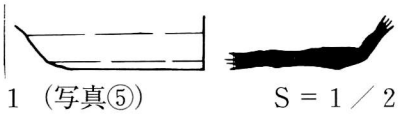



図３　土層柱状図

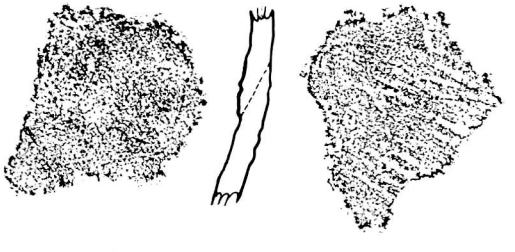
（遺物）

１は須恵器の坏底部で底部は回転ヘラ切りされている。残存部少なく詳細は不明である。２は土師器で残存部少なく器種等不明であるが外面にタタキ痕がある。

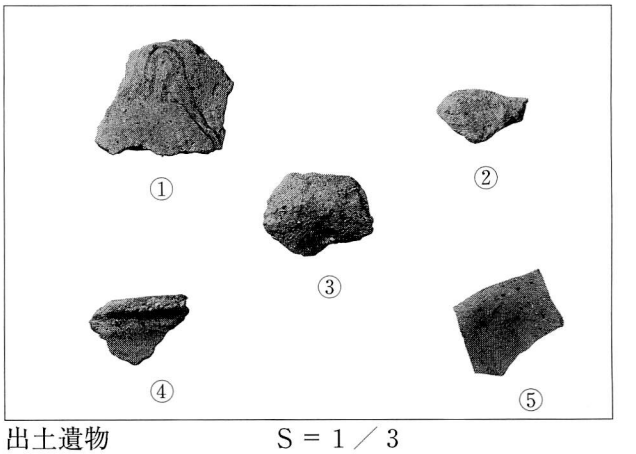
３は唐津系陶器の高台付皿である。皿の底部内面、高台底部外面にそれぞれ４ヶ所の砂目痕がある。縁は折縁で焼成による焼ゆがみは全体の1/3に及ぶ。４は同じく唐津系の陶器であるが、皿（？）底部が残存するのみで詳細は不明である。高台部は施釉が及んでおらず１と同じく皿の底部内面に４ヶ所、高台底部外面に３ヶ所の砂目痕がある。



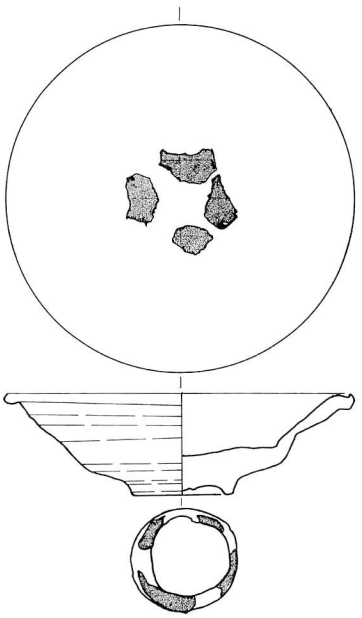
１（写真⑤）　S＝１／２



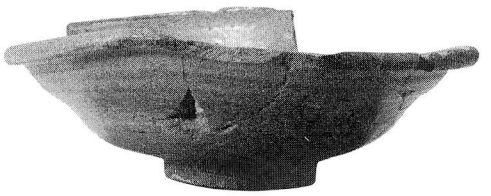
２（写真①）　S＝１／２




出土遺物　S＝１／３

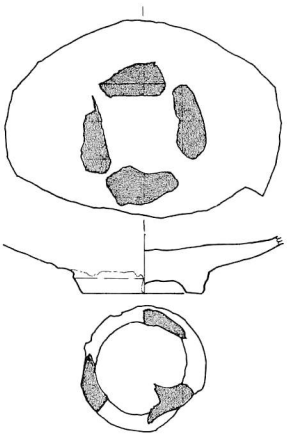


3（写真右上）　S＝1／3



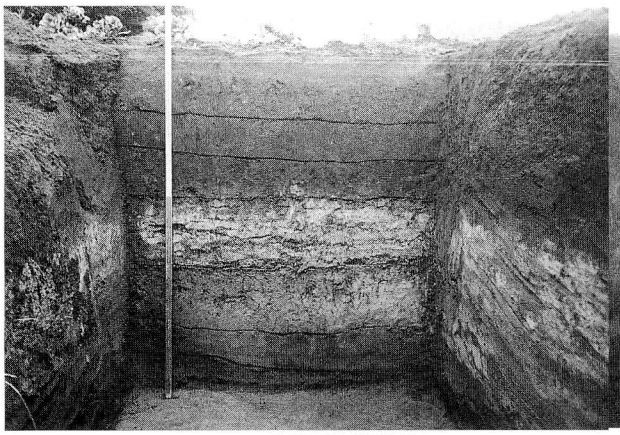
S＝1／2

S＝1／2



4（写真右下）　S＝1／3

調査区近景（北から）



1Ｔ　土層堆積状況

2Ｔ　土層堆積状況

# Ⅸ　猿ヶ馬場Ａ遺跡範囲確認調査

1　調 査 地：新潟市東中野山６丁目158番１ほか

2　調査期間：２月５日

3　調査面積：調査対象面積818㎡　調査面積35.6㎡（調査対象面積の4.3%）

4　調 査 員：廣野　耕造・朝岡　政康

5　遺跡の概要と調査経過

(1)　遺跡の概要

猿ヶ馬場Ａ遺跡は昭和37年度からの石山団地造成で須恵器片・土師器片が出土したとの報告や、昭和54年度の分布調査で中世のものと思われる遺物の散布が確認されているが、宅地の開発などで遺跡の地点もわかりにくくなってきている。石山砂丘（阿賀野川以東の新砂丘Ⅱ－２列に対比）の砂丘列南斜面に立地し、推定範囲は約5,600㎡である。

(2)　調査に至る経緯

猿ヶ馬場Ａ遺跡がかかる畑地に店舗建設が計画され、建設計画の内容、猿ヶ馬場Ａ遺跡の現状等を考慮し、遺跡の範囲・開発の遺跡への影響を確認する調査を実施することとなった。

(3) 調査の方法と調査結果

調査の方法　建設予定範囲を中心にに幅２ｍ、長さ４～７ｍのトレンチを３ヶ所設定した。各トレンチは0.25㎡級バックホウを使用し、１回に10～20㎝ずつ掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認に努めながら基盤層が露出するまでか、または崩落の危険を避けるため地表面から２ｍまでを限度として掘り下げた。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し記録にとどめた。

調査結果　土層の様子については右記の表、および図３の通りである。当該調査地の地権者の話では、３Ｔ周辺を除いてかつて水田として利用していたが、大部分低地だったため近年工事の残土を盛って平らにならし畑にしたとのことであった。Ⅰ層がその盛土に当たる。土層の堆積状況から、１Ｔ・２Ｔ周辺は石山砂丘南側斜面の落ち込みに当たり、ガツボがみられることからかつては低湿地であったと考えられる。また３Ｔ周辺については基盤層が幾分高いようだが、それでも現在では海水面より低く、低地であることには変わりない。遺構・遺物は全トレンチにおいていっさい検出されなかった。これらのことより当該調査地は猿ヶ馬場Ａ遺跡の範囲には入らないと考えられる。

土層観察表

| | |
|---|---|
| Ⅰ層 | 盛土（現代） |
| Ⅱ層 | 耕作土・盛砂 |
| Ⅲ層 | 明青灰色粗砂 |
| Ⅳ層 | 暗灰色粘土 |
| Ⅴ層 | 灰褐色粘土 |
| Ⅵ層 | 腐食植物層（ガツボ。灰褐色粘土混じり） |
| Ⅶ層 | 暗茶褐色砂質土（灰白色粘土混じり） |
| Ⅷ層 | 暗灰色～暗灰黄色粗砂 |
| Ⅸ層 | 明灰色～明灰黄色粗砂（基盤層） |

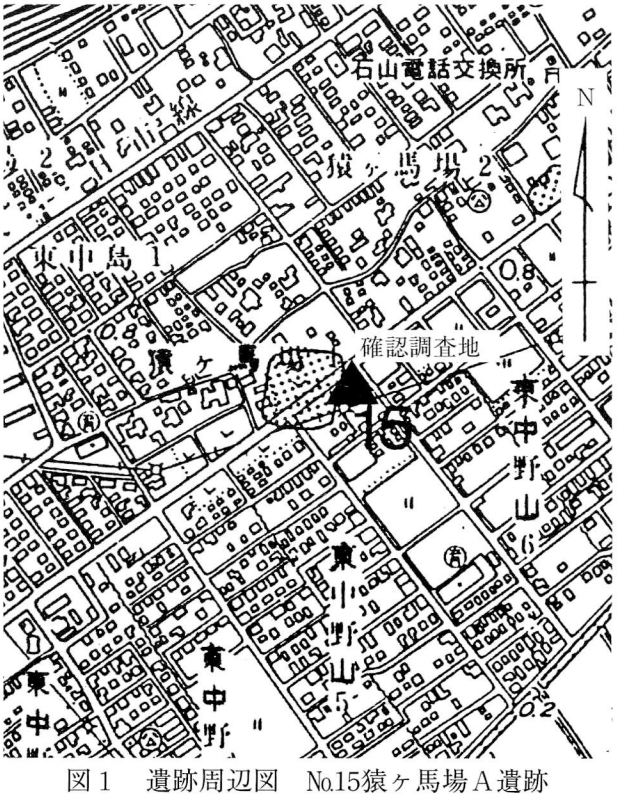



図１　遺跡周辺図　№15猿ヶ馬場Ａ遺跡
Ｓ＝１／7,500

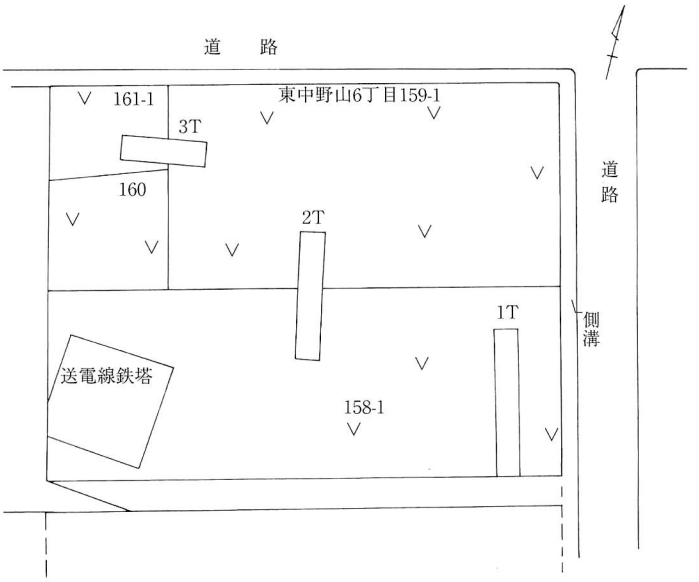



図２　トレンチ配置図　Ｓ＝１／500

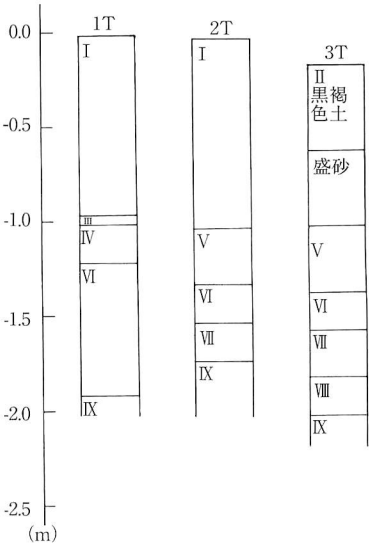
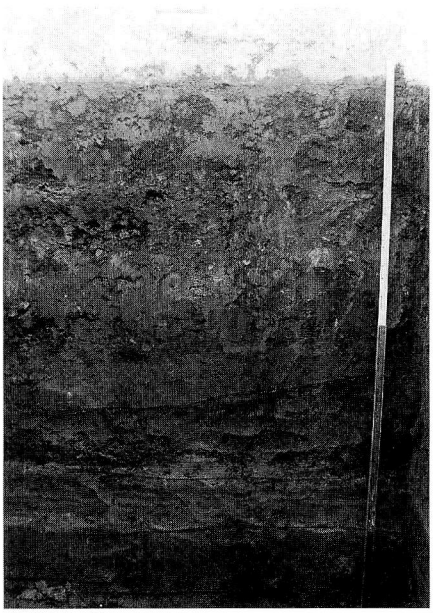
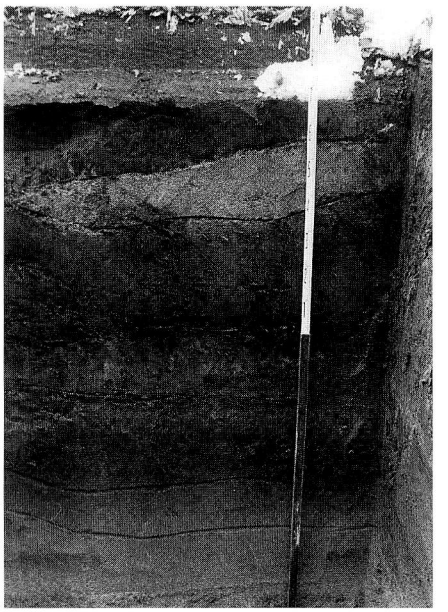



図３　土層柱状図

調査地近景



２Ｔ　土層堆積状況



３Ｔ　土層堆積状況

参考・引用文献

Ⅱ章　木山遺跡

・「木山遺跡」　『新潟市史　資料編１』新潟市　1994
・酒井和男　『昭和54年度新潟市文化財調査資料』新潟市教育委員会　社会教育課　1979
・『平成６年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会　生涯学習課　1995
・『平成８年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会　生涯学習課　1997

Ⅲ章　古屋敷遺跡

・川上貞雄　『古屋敷遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会　1986
・「古屋敷遺跡」　『新潟市史　資料編１』新潟市　1994
・『1989年度埋蔵文化財発掘調査報告書』新潟市教育委員会　1991
・『平成４年度市内遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会　1993
・『平成５年度市内遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会　1994
・『平成６年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会　生涯学習課　1995
・『平成８年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会　生涯学習課　1997

Ⅳ章　下場遺跡

・「下場遺跡」　『新潟市史　資料編１』新潟市　1994
・『平成４年度市内遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会　1993
・『平成５年度市内遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会　1994
・『平成６年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会　生涯学習課　1995

Ⅴ章　大藪遺跡

・「大藪遺跡」　『新潟市史　資料編１』新潟市　1994
・『平成５年度市内遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会　1994
・『平成６年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会　生涯学習課　1995

Ⅵ章　大淵遺跡

・「大淵遺跡」　『新潟市史　資料編１』新潟市　1994
・酒井和男　『大江山地区の遺跡』新潟市教育委員会　1987
・新潟市合併町村史編集室　『新潟市合併町村の歴史』第４巻　1986
・『平成４年度市内遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会　1993
・『平成５年度市内遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会　1994
・『平成６年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会　生涯学習課　1995
・『平成７年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会　生涯学習課　1996
・『平成８年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会　生涯学習課　1997

Ⅶ章　向山遺跡
・「向山遺跡・横山遺跡」　『新潟市史　資料編１』新潟市　1994
・『平成６年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会　生涯学習課　1995

Ⅷ章　直り山Ｂ遺跡
・「直り山Ｂ遺跡」　『新潟市史　資料編１』新潟市　1994
・酒井和男　『昭和57年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会　社会教育課　1982
・酒井和男　『昭和59年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会　社会教育課　1984
・酒井和男　『大江山地区の遺跡』新潟市教育委員会　1987

Ⅸ章　猿ヶ馬場Ａ遺跡
・「猿ヶ馬場Ａ遺跡」　『新潟市史　資料編１』新潟市　1994
・新潟市合併町村史編集室　『新潟市合併町村の歴史』第４巻　1986
(参照順)

## 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふ り が な | へいせい9ねんどまいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ |
| 書　　名 | 平成９年度埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 編 著 者 名 | 朝　岡　政　康 |
| 編 集 機 関 | 新潟市教育委員会埋蔵文化財センター |
| 所　在　地 | 〒951-8550　新潟県新潟市学校町通１番町602 番地１ |
| 発行年月日 | 西暦1998年３月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| きやまいせき<br>木山遺跡 | にいがたけんにいがたし<br>新潟県新潟市<br>きやまあざまえだ<br>木山字前田 | 15201 | 42 | 138度<br>54分<br>00秒 | 37度<br>37分<br>31秒 | 19970723<br>～<br>19970724 | 69 | 工場拡張に伴う確認調査 |
| ふるやしきいせき<br>古屋敷遺跡 | にいがたけんにいがたし<br>新潟県新潟市<br>まつざきあざひがし<br>松崎字東 | 15201 | 31 | 139度<br>07分<br>10秒 | 37度<br>55分<br>46秒 | 19970729<br>～<br>19970805 | 312 | 土地区画整理事業に伴う確認調査 |
| げばいせき<br>下場遺跡 | にいがたけんにいがたし<br>新潟県新潟市<br>げばほんちょう<br>下場本町 | 15201 | 86 | 139度<br>06分<br>21秒 | 37度<br>53分<br>58秒 | 19970828 | 24 | 店舗建設に伴う確認調査 |
| おやぶいせき<br>大藪遺跡 | にいがたけんにいがたし<br>新潟県新潟市<br>あかつかあざえむかい<br>赤塚字江向 | 15201 | 41 | 138度<br>53分<br>35秒 | 37度<br>48分<br>55秒 | 19970910 | 24 | たばこ乾燥施設建設に伴う確認調査 |
| おおぶちいせき<br>大淵遺跡 | にいがたけんにいがたし<br>新潟県新潟市<br>おおぶちあざてんじんうら<br>大淵字天神浦 | 15201 | 16 | 139度<br>08分<br>40秒 | 37度<br>53分<br>45秒 | 19971015<br>～<br>19971017<br>19971023 | 240 | 県営宅地造成に伴う確認調査 |
| むかいやまいせき<br>向山遺跡 | にいがたけんにいがたし<br>新潟県新潟市<br>たゆうはまあざむかいやま<br>太夫浜字向山 | 15201 | 22 | 139度<br>10分<br>35秒 | 37度<br>57分<br>00秒 | 19971111<br>～<br>19971113<br>19971118<br>19971119 | 20 | 鉄骨ハウス建設に伴う確認調査 |
| なおりやまBいせき<br>直り山Ｂ遺跡 | にいがたけんにいがたし<br>新潟県新潟市<br>なおりやまあざこまるやま<br>直り山字小丸山 | 15201 | 61 | 139度<br>08分<br>30秒 | 37度<br>53分<br>10秒 | 19971218 | 30 | 直り山自治会館建設に伴う確認調査 |
| さるがばばAいせき<br>猿ヶ馬場Ａ遺跡 | にいがたけんにいがたし<br>新潟県新潟市<br>ひがしなかのやま<br>東中野山 | 15201 | 15 | 139度<br>07分<br>07秒 | 37度<br>54分<br>12秒 | 19980205 | 35.6 | 店舗建設に伴う確認調査 |

| 所収遺跡名 | 種　別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 木山遺跡 | 包含地 | 平安・鎌倉 | | | |
| 古屋敷遺跡 | 包含地 | 室町・江戸 | | 近世陶器片　27点<br>焼土塊　2点<br>土師器片　1点<br>木製品　1点 | |
| 下場遺跡 | 包含地 | 平安・中世 | | | |
| 大藪遺跡 | 包含地 | 縄文・古墳～室町 | | | |
| 大淵遺跡 | 包含地 | 平安・中世 | 時期不明遺構２<br>（調査時未調査） | 須恵器片　1点<br>土師器片　3点<br>珠洲焼片　1点 | |
| 向山遺跡 | 包含地 | 平安 | | | |
| 直り山Ｂ遺跡 | 包含地 | 平安 | | 須恵器片　1点<br>土師器片　3点<br>近世陶器片　3点 | |
| 猿ヶ馬場Ａ遺跡 | 散布地 | 平安・室町 | | | |


平成９年度埋蔵文化財
発掘調査報告書

発行日　平成10年３月
発　行　新潟市教育委員会
新潟市学校町通１番町602番地１
〒951-8550　電話（025）228－1000
印　刷　㈲太陽印刷所
新潟市和合町２丁目４番18号
〒950-0985　電話（025）382－7651